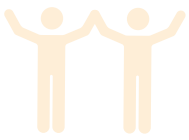




第五回全国高校生金融経済クイズ選手権 エコノミクス甲子園 報告書





ご挨拶

2

エコノミクス甲子園はこんな大会です!

3

概要

5

各地方大会+参加高校一覧

6

全国大会

15

NY研修旅行の様子と感想

18

第六回大会について

24

全国大会出場者感想

25

参加者アンケート

34

事前学習教材紹介

36

メディア掲載実績

37

Special Thanks

38



エコノミクス甲子園 第五回大会を迎えて

エコノミクス甲子園実行委員長
金子 昌資



昨年度も多くの皆様のご協力、ご支援をもちまして、第五回エコノミクス甲子園を開催することができました。後援を頂いた内閣府・文部科学省、ご協力を頂いた企業の皆様、各地方大会を開催いただいた金融機関の皆様、有形無形さまざまなご支援をいただいた皆様、そして何より大会に参加し、貴重な金融知力を学んだ高校生の皆様にお礼を申し上げたいと思います。

エコノミクス甲子園はこれからの日本を背負って立つ高校生たちのための大会です。2006年に第一回大会が開催され、今回第五回というひとつの節目を迎えることができました。ひとりでも多くの高校生に金融知力を身に付けてもらいたいとの思いで開催してきた大会は25校33チームが参加した第一回大会から大きく成長し、今や237校600チームが参加をするまでの規模になっています。1200名もの高校生たちに金融知力を学んでもらえたことを大変嬉しく思います。

今年3月11日、未曾有の大地震によって、エコノミクス甲子園の地方大会を開催していただいた岩手・宮城・千葉を含む東北・関東の各地で甚大な被害が発生いたしました。被害に遭われた皆様に心からお見舞いを申し上げます。

この大地震が日本にもたらした損失は計り知れません。日本全体がひとつになり、地震の痛手から立ち上がろうとしている今、エコノミクス甲子園も「未来を担う高校生たちを大きく育てる」という役割を果たすことで、微力ながら復興の一助として貢献できればと思います。

彼らがエコノミクス甲子園を通じて、日本が経済という絆でつながっていることに気づき、復興に向けた新しい力を育むことができればと思います。そしてエコノミクス甲子園で得た知識・経験を糧にして大きく成長してくれることを願ってやみません。

どうぞ今後とも皆様のご指導ご協力をよろしくお願い致します。



1

ポスターや学校の先生に教えられて 出場を決意!

- ・ネットや携帯電話から応募
- ・参加は無料!



2

金融知力普及協会から送られてくる 事前学習教材で経済を勉強

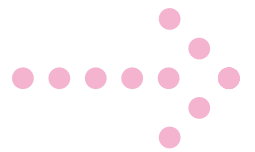
- ・金融知力通信講座グラウンドステージテキスト・・・ 寄贈:シティバンク銀行
- ・ファイナンス基礎 …………… 寄贈:シティバンク銀行
- ・ビギナーズのためのファイナンス入門 …………… 寄贈:金融広報中央委員会
- ・これであなたもひとり立ち …………… 寄贈:金融広報中央委員会
- ・ライフステージで学ぶ銀行 …………… 寄贈:全国銀行協会
- ・賢くつきあうローン&クレジット…………… 寄贈:全国銀行協会
- ・そんぽのホントフレッシュアズガイド…………… 寄贈:日本損害保険協会
- ・株式会社制度と証券市場のしくみ …………… 寄贈:日本証券業協会
- ・10代から学ぶパーソナルファイナンス…………… 寄贈:日本ファイナンシャル・プランナーズ協会



3

地方大会に参加

- ・地方大会は各地の地方銀行など
金融機関が地域貢献として開催
- ・生活していく上で是非知っておいて欲しい経済の
基礎知識や地元経済などについての問題
- ・筆記問題(50問)と早押しクイズで競う
- ・地方大会で優勝したチームは全国大会に出場





日本全国の高校生達に
金融経済を学ぶ機会を提供!
将来の日本をリードする人材の育成!



5

優勝チームはニューヨーク研修旅行にご招待

- ・現地で活躍する様々な方々へのインタビューや
経済に関する様々な場所を見学



4

全国大会に参加

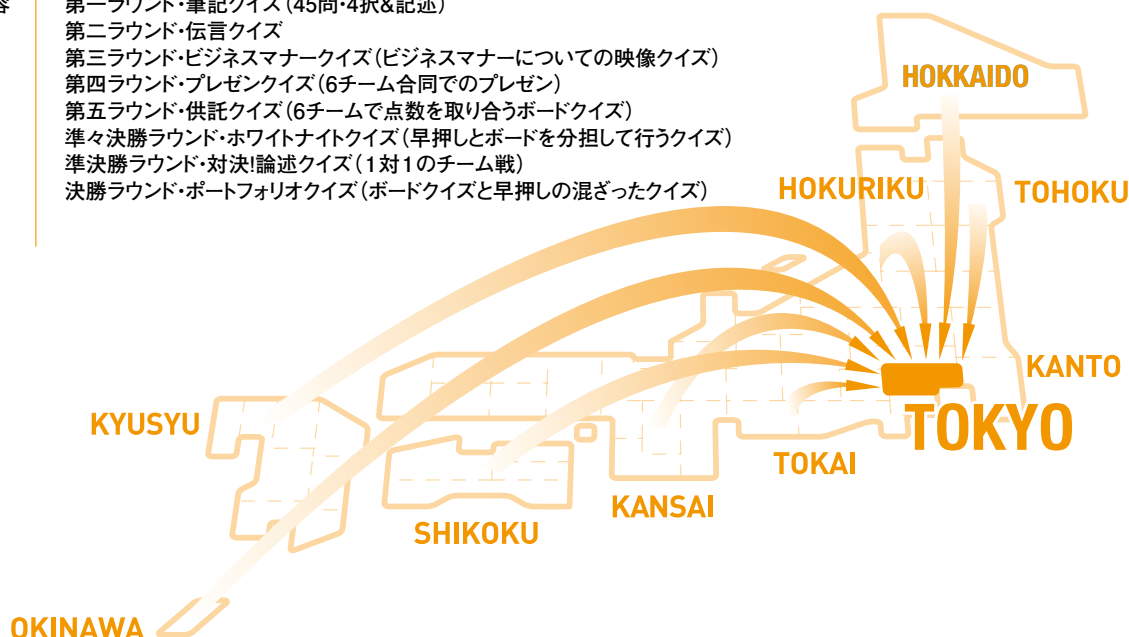
- ・経済用語をわかりやすく説明するスピーチクイズや
他チームと協力したプレゼンクイズなど、
より深い知識や理解が求められる形式の様々なクイズに挑む





名 称	第五回全国高校生金融経済クイズ選手権 『エコノミクス甲子園』 社会に羽ばたく前の高校生に、世の中がどのような金融経済の仕組みで動いているか理解して読み解き、「自分のライフデザイン」や「自分とお金の関わり方」についてクイズを通して考えてもらうきっかけとするために開催する。 開催にあたり、遍く全国の高校生に均等な機会を与えるべく、金融機関の責務としての金融教育活動を行うことを希望する地方金融機関と協働して地方大会を行うこととする。
期 日	<ul style="list-style-type: none"> ・全国大会 2011/2/12(土) 10時00分 ~ 17時00分 金融知力普及協会 於)六本木ヒルズ ハリウッドプラザ5階 ハリウッドホール ・地方大会 <ul style="list-style-type: none"> 2010/11/14(日)開催 関東大会 りそな銀行 於)りそな銀行 東京本社 2階 りそなコミュニケーションプラザ 2010/12/ 5(日)開催 千葉大会 千葉銀行・千葉興業銀行 於)千葉銀行 本店 大ホール 2010/12/12(日)開催 岐阜大会 十六銀行 於)十六銀行 本店 3階 大会議室 九州大会 西日本シティ銀行 於)NCBリサーチ&コンサルティング 岩手大会 岩手銀行 於)岩手銀行 本店 宮城大会 七十七銀行 於)七十七銀行 本店 神奈川大会 横浜銀行 於)横浜銀行 本店 大会議室 富山大会 北陸銀行 於)富山国際会議場 石川大会 北國銀行 於)北國銀行 本店 5階 大集会室 秋田大会 秋田銀行 於)秋田銀行 本店 10階 2010/12/18(土)開催 東海大会 愛知銀行 於)愛知銀行 本店 8階ホール 2010/12/19(日)開催 北海道大会 北海道銀行 於)北海道銀行 ほしみ研修センター 埼玉大会 埼玉りそな銀行 於)埼玉りそな銀行 さいたま営業部 福井大会 北陸銀行 於)福井新聞社 風の森ホール 奈良大会 南都銀行 於)南都銀行 研修センター 中国大会 中国銀行 於)中国銀行 本店 3階大講堂 徳島大会 阿波銀行 於)あわぎんホール 香川大会 百十四銀行 於)百十四銀行 研修会館 愛媛大会 伊予銀行 於)伊予銀行 本店 4階ホール 鹿児島大会 鹿児島銀行 於)かぎん会館with 2010/12/23(木)開催 沖縄大会 沖縄銀行 於)沖縄銀行 本店 5階ホール 関西大会 りそな銀行・近畿大阪銀行 於)りそな銀行 大阪本社 長崎大会 十八銀行 於)十八銀行 本店 10階会議室
主 催	特定非営利活動法人 金融知力普及協会
地方大会主催	各地の金融機関(地方大会のみ「主催」とし、全国大会は「協力」企業とする。)
後 援	内閣府 文部科学省
協 賛	シティバンク銀行株式会社、ラッセル・インベストメント・グループ 金融広報中央委員会、全国銀行協会、日本証券業協会、日本損害保険協会、ハリウッド大学院大学、日本ファイナンシャルアカデミー株式会社、日本ファイナンシャル・プランナーズ協会、日興フィナンシャル・インテリジェンス株式会社、株式会社 学生情報センター、青山社中株式会社

- 地方大会内容
- 第一ラウンド・筆記クイズ(50問の4択クイズ)
 - 第二ラウンド・早押しクイズ(チーム戦)
 - 決勝ラウンド・ボードクイズ(決勝進出の6チームでボードクイズ)
- 全国大会内容
- 第一ラウンド・筆記クイズ(45問・4択&記述)
 - 第二ラウンド・伝言クイズ
 - 第三ラウンド・ビジネスマナークイズ(ビジネスマナーについての映像クイズ)
 - 第四ラウンド・プレゼンクイズ(6チーム合同でのプレゼン)
 - 第五ラウンド・供託クイズ(6チームで点数を取り合うボードクイズ)
 - 準々決勝ラウンド・ホワイトナイトクイズ(早押しとボードを分担して行うクイズ)
 - 準決勝ラウンド・対決!論述クイズ(1対1のチーム戦)
 - 決勝ラウンド・ポートフォリオクイズ(ボードクイズと早押しの混ざったクイズ)



北海道大会

12月19日(日)開催

主催 北海道銀行
会場 北海道銀行 ほしみ研修センター

参加校一覧 北海道旭川東高等学校、
立命館慶祥高等学校、
札幌北陵高等学校、
北海道小樽潮陵高等学校、
北海道札幌西高等学校、
参加チーム数 19チーム(5校)

運営スタッフ感想 連続出場チームが群雄割拠する中、初出場の札幌西高校チームが優勝しました。スタッフは営業店の職員を中心としたメンバーで参加した生徒達と楽しく、熱い時間を過ごしました。来年も更に盛り上げていきたいと決意を新たにしています。



優勝チーム

北海道札幌西高等学校
位相差 π らじあん
上野 翔太 小原 一馬



準優勝チーム

北海道旭川東高等学校
自由放任主義(レッセフェール)
田中 竣 兼子 裕史

岩手大会

12月12日(日)開催

主催 岩手銀行
会場 岩手銀行 本店

参加校一覧 岩手県立盛岡第一高等学校、
岩手県立盛岡商業高等学校、
岩手県立盛岡第三高等学校、
岩手高等学校、
岩手県立宮古高等学校
参加チーム数 6チーム(5校)

運営スタッフ感想 前日リハーサルまでの準備は大変だったが、苦勞の甲斐もあって当日はスムーズな進行ができ、参加チームは6チームと少ないながらも盛り上がったと思う。なにより、出場した高校生に楽しんでもらえたということと、もっと勉強したいという意欲のある感想を聞くことができたことがうれしくもあり有意義だった。



優勝チーム

岩手県立盛岡第三高等学校
おしどり夫婦
高藤 桂太 矢羽々 英敬



準優勝チーム

岩手県立盛岡商業高等学校
チーム盛商C組
菊池 里紗 菅原 明子

宮城大会

12月12日(日)開催

主催 七十七銀行
会場 七十七銀行 本店

参加校一覧 宮城県仙台第一高等学校、気仙沼女子高等学校、宮城県塩釜高等学校、
宮城県宮城第一高等学校、宮城県古川黎明高等学校、宮城県仙台三桜高等学校、
宮城県仙台西高等学校、宮城県仙台第二高等学校、宮城県大河原商業高等学校、
宮城県名取北高等学校、仙台育英学園高等学校、仙台市立仙台商業高等学校、
仙台白百合学園高等学校、東北学院高等学校
参加チーム数 31チーム(14校)

運営スタッフ感想 宮城大会は今回が2回目の開催となり、今年も、参加した高校生には楽しみながらも真剣に取り組んでいただき、白熱した活気溢れる大会となりました。また、決勝戦では最後まで接戦となり、会場全体の雰囲気も大いに盛り上がりました。金融経済に関する知識は、社会生活を送るうえで必ず必要となるものなので、この大会への参加を契機に、今後も金融経済に関する勉強を続けていただければと思います。



優勝チーム

宮城県仙台第二高等学校
東京特許許可局員
高野 研 坂口 涼



準優勝チーム

宮城県宮城第一高等学校
ミヤイチ
笠原 みどり 高橋 沙織

秋田大会

12月18日(土)開催

主催 秋田銀行
会場 秋田銀行 本店10階

参加校一覧 秋田市立秋田商業高等学校、秋田県立大館国際情報学院高等学校、秋田県立秋田中央高等学校、秋田県立横手高等学校、秋田県立秋田南高等学校、秋田県立能代高等学校、秋田県立平成高等学校、能代市立能代商業高等学校、秋田県立秋田北高等学校、秋田県立大曲高等学校、秋田県立由利高等学校、秋田県立本荘高等学校
参加チーム数 32チーム(12校)

運営スタッフ感想 今回は、当行や秋田県教育委員会、秋田魁新報社などで組織するNPO法人「あきた・まなVIVA!創造塾」との連携により、過去最多となる秋田県内12校、32チームが参加し白熱した戦いが繰り広げられました。6チームによる決勝ラウンドは、僅差の大接戦となり、各チームが大会に向け事前準備を入念に行ってきた様子が窺え、エコノミクス甲子園が徐々に認知されて来ていることを改めて実感しました。



優勝チーム

秋田県立秋田中央高等学校
ザ・トミタニフジ
富田 克明 谷藤 圭太



準優勝チーム

秋田県立本荘高等学校
将軍
工藤 唯 柴田 舞花

埼玉大会

12月19日(日)開催

主催 埼玉りそな銀行
会場 埼玉りそな銀行 さいたま営業部

参加校一覧 埼玉県立浦和高等学校、埼玉県立浦和第一女子高等学校、埼玉県立越谷総合技術高等学校、川越東高等学校、早稲田大学本庄高等学院
参加チーム数 26チーム(5校)

運営スタッフ感想 冬の寒さにも負けず、活気溢れる高校生52名が集まりました。難易度の高い問題に熱心に取り組む高校生達の姿が印象的でした。決勝ラウンドは大接戦で白熱した大会となりました。今大会は埼玉大会過去2回の覇者浦和高校をおさえ、早稲田大学本庄高等学院が優勝、準優勝を決めました。詳しくは当社HPをご覧ください。
<http://www.resona-gr.co.jp/holdings/other/econ/index.html>



優勝チーム

早稲田大学本庄高等学院
エコノミスト
大橋 俊介 大場 賢史



準優勝チーム

早稲田大学本庄高等学院
W-Boys
川島 祥吾 木村 亮祐

千葉大会

12月5日(日)開催

主催 千葉銀行・千葉興業銀行
会場 千葉銀行 本店 大ホール

参加校一覧 市川高等学校、渋谷教育学園幕張高等学校、千葉県立千葉高等学校、千葉県立千葉商業高等学校、千葉県立船橋高等学校、千葉県立八千代高等学校、千葉市立千葉高等学校、船橋市立船橋高等学校、船橋東高等学校、東邦大学付属東邦高等学校、八千代松陰高等学校
参加チーム数 24チーム(11校)

運営スタッフ感想 今年の開催は、千葉県のマスコットキャラである「チーバくん」も会場にかけつけ、総勢22チームによる熱戦が繰り広げられました。決勝ラウンド進出の6チームは、トップから6位までが4点の差がなく、混戦で、実力が拮抗した決勝戦となりました。接戦の末、渋谷教育学園幕張高校のチーム「始値」の2人が優勝、全国大会行きの切符を手にしました。今後も回を重ねる中で、クオリティを高め、参加した高校生が楽しみ、金融経済に関する「気付き」を提供できるよう、千葉銀行、千葉興業銀行の2行で盛り上げていきたいです。



優勝チーム

渋谷教育学園幕張高等学校
始値
尾崎 眞史 松本 悠哉



準優勝チーム

渋谷教育学園幕張高等学校
じゆう
篠原 雄仁 名取 徹

関東大会

11月14日(日)開催

主催 場所 リソナ銀行
 リソナ銀行 東京本社 2階 リソナコミュニケーションプラザ

参加校一覧 東京都立永山高等学校、駒場東邦高等学校福島、福島県立福島高等学校、広尾学園高等学校、山梨県立甲府西高等学校、山梨県立甲府南高等学校、私立開成高等学校、私立青山学院高等部、女子学院高等学校、早稲田大学高等学院、筑波大学附属高等学校、長野県松本深志高等学校、東京都立日比谷高等学校、東京都立立川高等学校、日本学園高等学校
 参加チーム数 31チーム(15校)

運営スタッフ感想 リソナ銀行本社が木場に移転して初めての開催となった今年の関東大会。第1ラウンド、第2ラウンド終了時点では、3点差の中に3~7位の5チームがひしめくという大接戦となりました。その接戦を制し決勝ラウンドに進出した6チーム中、昨年の覇者開成チームを破り見事優勝したのは、予選5位通過の甲府南高校でした。今年は、知っているに役立つ問題が多く出題されたので、この大会をきっかけにより多くの高校生が経済に興味を持ってくれると嬉しいです。大会の様子は当社HPをご覧ください。
<http://www.resona-gr.co.jp/holdings/other/econ/index.html>



優勝チーム
 山梨県立甲府南高等学校
 編集長と漫画家
 溝口 聡 廣瀬 哲



準優勝チーム
 私立開成高等学校
 威風堂々
 飛鏞 拓美 鈴木 耀介

神奈川大会

12月12日(日)開催

主催 場所 横浜銀行
 横浜銀行 本店 大会議室

参加校一覧 神奈川県立海老名高等学校、サレジオ学院高等学校、横浜雙葉高等学校、桐蔭学園高等学校、慶応義塾湘南藤沢高等部、慶應義塾高等学校、私立聖光学院高等学校、神奈川県立横須賀高等学校、神奈川県立横浜翠嵐高等学校
 参加チーム数 35チーム(9校)

運営スタッフ感想 神奈川大会は今年で3回目を迎えますが、毎年高校生の皆さんがよく勉強されているなど感心します。この大会をきっかけに1人でも多くの高校生が金融経済に興味を持つきっかけとなってもらえるよう、来年も熱気あふれる大会を開催したいと思います。



優勝チーム
 北神奈川県立横須賀高等学校
 リバイアさん
 中尾 祐介 小高 聡志



準優勝チーム
 私立聖光学院高等学校
 テライケメンs
 黒部 笙太 荒井 大樹

富山大会

12月12日(日)開催

主催 場所 北陸銀行
 富山国際会議場

参加校一覧 高岡向陵高等学校、高岡第一高等学校、国立富山高等専門学校(射水キャンパス)、新潟県立高田高等学校、富山県立滑川高等学校、富山県立高岡商業高等学校、富山県立水橋高等学校、富山県立南砺福野高等学校、富山県立富山高等学校、富山県立富山西高等学校、富山県立富山東高等学校、富山高等専門学校、富山第一高等学校、富山中部高等学校、片山学園高等学校
 参加チーム数 22チーム(15校)

運営スタッフ感想 大会運営も3回目となりました。スタッフにも余裕ができて、大いに楽しみながら運営しました。今回は、初めてお隣の新潟県の生徒が参加され、裾野の広がりを感じました。



優勝チーム
 片山学園高等学校
 アルパトロス
 伊勢 翔彌 朴木 信



準優勝チーム
 片山学園高等学校
 西尾ライオンズ
 野崎 雄樹 長永 大史

石川大会

12月12日(日)開催

主催 北國銀行
会場 北國銀行 本店 5階大集会室

参加校一覧 石川県立金沢北陵高等学校、
石川県立七尾高等学校、
金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校、
石川県立金沢商業高等学校、
北陸学院高等学校、
日本航空高等学校石川、
石川県立金沢泉丘高等学校
参加チーム数 11チーム(7校)

運営スタッフ感想 チーム数が10チームと少なかったが、早押しを中心に盛り上がり
ました。予選でぶっちぎりのチームが結局優勝しましたが、決勝の
ボードクイズでは、マッチポイントが2チームとなるハラハラする場
面もありました。



優勝チーム

金沢大学人間社会学域学校
教育学類附属高等学校
イルミナティ
岡本 賢 比嘉 将大



準優勝チーム

石川県立金沢泉丘高等学校
チーム理数科
松田 知泰 神野 佑輔

福井大会

12月19日(日)開催

主催 北陸銀行
会場 福井新聞社 風の森ホール

参加校一覧 福井県立丸岡高等学校、福井県立金津高等学校、
福井県立高志高等学校、福井県立三国高等学校、
福井県立若狭高等学校、福井県立勝山南高等学校、
福井県立大野高等学校、福井県立藤島高等学校、
福井県立武生高等学校、福井県立福井商業高等学校、
福井工業高等専門学校、北陸高等学校
参加チーム数 34チーム(12校)

運営スタッフ感想 今大会の優勝チームは、昨年の準優勝チームで、みごとにリベン
ジを果たしました。また、昨年優勝者が見学に訪れ、今大会優勝
チームへ全国大会のアドバイスをされていました。昨日の敵は、今日
の友!



優勝チーム

福井工業高等専門学校
東証プロジェクト
玉木 義孝 田本 達也



準優勝チーム

福井県立武生高等学校
ブルーALMA
飯田 紘己 網田 圭佑

岐阜大会

12月5日(日)開催

主催 十六銀行
会場 十六銀行 本店 3階大会議室

参加校一覧 岐阜県立岐阜北高等学校、岐阜県立岐阜高等学校、岐阜県立
岐阜商業高等学校、岐阜県立東濃実業高等学校、帝京大学可
児高等学校、岐阜県立可児高等学校、聖マリア女学院高等学
校、多治見西高等学校、岐阜県立関高等学校、飛騨高山高等学
校

参加チーム数 18チーム(10校)

運営スタッフ感想

岐阜大会は今回が初めての開催となりましたが、スタッフの緊張が高校生にも影響
してしまったのか、大人しいスタートとなりましたが、時間の経過とともに会場全体の
雰囲気も明るくなり、非常に盛り上がる事ができました。難問に取り組む高校生の
熱気が会場を盛り上げたことは言うまでもありません。金融経済の仕組みや動向に
楽しみながら興味を抱くことができる機会を提供できることは、将来社会人として活
躍できる人材育成において有意義であることを実感でき、嬉しく思います。次回も、
より多くの高校生に一層熱くしてもらえらる大会を開催したいと考えています。



優勝チーム

岐阜県立岐阜高等学校
GHQ
深見 研太 澤田 拓也



準優勝チーム

岐阜県立可児高等学校
クレイジー・パンダ
今瀬 太陽 川崎 雄輝

東海大会

12月18日(土)開催

主催 愛知銀行
会場 愛知銀行 本店 8階ホール

参加校一覧 セントヨゼフ女子学園高等学校、愛知県立旭丘高等学校、愛知県立杏和高等学校、愛知県立千種高等学校、愛知県立豊橋東高等学校、愛知県立木曾川高等学校、海陽学園海陽中等教育学校、学校法人 中部大学春日丘高等学校、学校法人滝学園 滝高等学校、三重県立宇治山田商業高等学校、三重県立川越高等学校、静岡県立浜松北高等学校、東海高等学校、同朋高等学校、名古屋大学教育学部附属高等学校
参加チーム数 27チーム(15校)

運営スタッフ感想 今回は東海大会として最多学校数・チーム数となりました!少しずつでも地元の方々に認知されて来ているのかと思うと嬉しい限りです。大会は予選通過1位の名大附属高校がそのまま勝ち抜きました。このチームは第三回・第四回東海大会の優勝者が今回パートナーを変え再挑戦。見事3連覇となりました!来年も高校生の皆さんに楽しんでもらえるように更に大会を盛り上げていきたいと思ひます。



優勝チーム

名古屋大学教育学部附属高等学校
マダムスミス
坂野 慶太 堀場 美咲



準優勝チーム

三重県立川越高等学校
ネイツー
増田 高也 東 成利

関西大会

12月23日(木・祝)開催

主催 リソナ銀行・近畿大阪銀行
会場 リソナ銀行 大阪本社

参加校一覧 関西学院高等部、私立大阪星光学院高等学校、私立灘高等学校、滋賀県立守山高等学校、同志社香里高等学校、洛南高等学校
参加チーム数 9チーム(6校)

運営スタッフ感想 クリスマスイブの前日、地方大会の最後を飾り、リソナ銀行と近畿大阪銀行の共催で関西大会を開催しました。当日はエントリーしてくれた全チームが元気に出席、決勝ラウンドでは、最後まで優勝の可能性があるチームがひしめき合う、とても拮抗した好ゲームが展開されました。今年は、知っている役に立つ問題が多く出題されたので、この大会をきっかけにより多くの高校生が経済に興味を持ってくれると嬉しいです。街も人もクリスマスモードの中、金融知力を競うため参加してくれた高校生諸君、今後の活躍を期待しています。大会の様子は当社HPをご覧ください。
<http://www.resona-gr.co.jp/holdings/other/econ/index.html>



優勝チーム

私立灘高等学校
ぱんだこぱんだ
沼 大地 外山 望



準優勝チーム

関西学院高等部
テレシコワ
北田 吏 霜倉 チャールズ元気

奈良大会

12月19日(日)開催

主催 南都銀行
会場 南都銀行 研修センター

参加校一覧 私立帝塚山高等学校、私立東大寺学園高等学校、西和学園高等学校、智辯学園奈良カレッジ、奈良学園高等学校、奈良県立畝傍高等学校、奈良県立大淀高等学校、奈良県立奈良朱雀高等学校、奈良県立奈良情報商業高等学校
参加チーム数 23チーム(9校)

運営スタッフ感想 今年で2回目の奈良大会開催となりましたが、初出場校を含めて前回は上回る数の学校や生徒の方に参加頂き、地域の「ゆるキャラ」の着ぐるみをまとった生徒も登場するなど、大いに盛り上がりました。特に今年の大会は、多数の先生方にも観戦いただきましたので、今後の県内における金融経済教育の更なる普及につながるのではないかと期待しています。



優勝チーム

奈良学園高等学校
Straight
中井 啓貴 松山 宏彰



準優勝チーム

私立東大寺学園高等学校
ACTIVIST
津山 隼 石川 達也

中国大会

12月19日(日)開催

主催 中国銀行
会場 中国銀行 本店 3階大講堂

参加校一覧 AICJ高等学校、国立広島大学附属福山高等学校、岡山県玉野市立玉野備南高等学校、岡山県立井原高等学校、岡山県立岡山朝日高等学校、岡山県立岡山芳泉高等学校、岡山県立笠岡高等学校、岡山県立玉島商業高等学校、岡山県立倉敷商業高等学校、岡山県立倉敷青陵高等学校、岡山県立倉敷天城高等学校、岡山県立倉敷南高等学校、岡山県立倉敷鷺羽高等学校、岡山県立総社南高等学校、岡山高等学校、岡山白陵高等学校、金光学園高等学校、広島学院高等学校、広島県立尾道北高等学校、山口県立大津高等学校、檀蔭学園聖光高等学校、米子松蔭高等学校
参加チーム数 58チーム(22校)

運営スタッフ感想 今回は、会場を本店大講堂に移し、80チームのエントリーを目指し、活動を行いました。結果は58チーム(当日参加47チーム)となりましたが、遠くは、山口県、鳥取県からの参加もあり、中国大会の名前にふさわしい大会となりました。「来年もまた参加します」「来年は優勝します」といった感想もあり、引き続き周知活動に力を入れ、参加してくれる高校の数がふえるように努力をしていきたいと思っています。



優勝チーム
岡山白陵高等学校
WIRDWIRT
大橋 萌 申 知仁



準優勝チーム
国立広島大学附属福山高等学校
メガロポリス
太田 龍生 望月 洋樹

徳島大会

12月19日(日)開催

主催 阿波銀行
会場 あわぎんホール

参加校一覧 穴吹高等学校、徳島県立阿波高等学校、徳島県立城ノ内高等学校、徳島県立城東高等学校、徳島県立城南高等学校、徳島県立川島高等学校、徳島県立徳島商業高等学校、徳島県立徳島北高等学校、徳島県立富岡東高等学校、徳島県立鳴門高等学校、徳島県立脇町高等学校、徳島市立高等学校
参加チーム数 29チーム(12校)

運営スタッフ感想 今回初めて徳島大会開催するにあたり、参加者が集まるかどうか最大の不安要因でしたが、当日は12校27チームの高校生にご参加頂き、大盛況のなか大会を終えることが出来ました。どのチームも良く勉強して大会に臨んでいることが窺えるレベルの高い大会になりました。何より、参加者の「楽しかった」「来年も参加したい」という声に安堵しています。最後になりましたが、参加していただいた高校生の皆さん、ご尽力頂きました関係各所の皆さまに感謝とお礼を申し上げます。



優勝チーム
徳島県立城東高等学校
チーム西北西
乾 雄貴 西岡 大輝



準優勝チーム
徳島市立高等学校
RYOTE
周 勅 山岡 諒子

香川大会

12月19日(日)開催

主催 百十四銀行
会場 百十四銀行 研修会館

参加校一覧 香川県立観音寺第一高等学校、香川県立高松工芸高等学校、香川県立高松高等学校、香川県立高松桜井高等学校、香川県立三本松高等学校、高松市立高松第一高等学校、土佐高等学校
参加チーム数 19チーム(7校)

運営スタッフ感想 決勝ボードクイズはサドンデスとなり、緊迫した戦いに会場は大変盛り上がりしました。地方大会ならではの「ご当地問題」も盛り込み、高校生の皆さんが地元経済によりいっそう親んでもらえるように工夫しました。



優勝チーム
香川県立高松高等学校
ルパン
松岡 明宏 松本 渉



準優勝チーム
香川県立高松高等学校
フィランソロピー
兼徳 拓也 黒川 滉登

愛媛大会

12月19日(日)開催

主催 伊予銀行
会場 伊予銀行 本店 4階ホール

参加校一覧 愛光高等学校、愛媛県立宇和島南中等教育学校、愛媛県立弓削高等学校、愛媛県立今治北高等学校、愛媛県立三島高等学校、愛媛県立松山西中等教育学校、愛媛県立松山東高等学校、愛媛県立新居浜西高等学校、愛媛県立八幡浜高等学校、愛媛県立北宇和高等学校、済美高等学校、私立新田青雲中等教育学校

参加チーム数 44チーム(12校)

運営スタッフ感想 第五回 エコノミクス甲子園 愛媛大会は、愛媛県内12校37チームに参加いただき、無事開催することができました。愛媛大会は今年で三回目を迎え、愛媛県内におけるエコノミクス甲子園の認知度の高まりを実感しました。ステージ上では、参加者による個性溢れるパフォーマンスが披露され、会場は大いに盛り上がりました。決勝ラウンドは、レベルの高い戦いが繰り広げられ、松山東高等学校「フィロソフィア」チームが見事全国大会への切符を手に入れました。高校生の皆さま、教育関係の皆さま、関係者の皆さま、ありがとうございました。



優勝チーム

愛媛県立松山東高等学校
フィロソフィア
増田 直道 宮本 優生



準優勝チーム

愛媛県立松山西中等教育学校
リヴァイアサン
向井 匠 玉井 康平

九州大会

12月5日(日)開催

主催 西日本シティ銀行
会場 NCBリサーチ&コンサルティング

参加校一覧 宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校、宮崎第一高等学校、九州産業大学付属九州産業高等学校、佐賀県立致遠館高等学校、糸島高等学校、福岡県立武蔵台高等学校、福岡県立福岡高等学校、福岡工業大学附属城東高等学校、福岡大学付属若葉高等学校、福岡大学附属大濠高等学校

参加チーム数 13チーム(10校)

運営スタッフ感想 次回大会以降もたくさん的高校生に参加してもらえるように、エコノミクス甲子園の知名度が高まることを期待します。当日の運営に大きな問題はありませんでした。決勝のボードクイズは、誤答でマイナスとなるためか白紙回答が多くなってしまい、改善の余地がありそうです。



優勝チーム

佐賀県立致遠館高等学校
経-on至上主義
武藤 大貴 峯 慎吾



準優勝チーム

宮崎第一高等学校
コロンプスの卵
前田 慎太郎 森山 健太郎

長崎大会

12月23日(木・祝)開催

主催 十八銀行
会場 十八銀行 本店 10階会議室

参加校一覧 精道三川台高等学校、長崎県立長崎東高等学校、長崎県立長崎北高等学校、長崎南山高等学校

参加チーム数 12チーム(4校)

運営スタッフ感想 今回、長崎県内では初めての開催でしたが、運営を一緒に行ったスタッフやその他たくさんの方々の協力をいただき、大会は大成功であったと思います。また、決勝ラウンドでは大接戦となり、参加してくれた学生も大会を大変盛り上げてくれました。次回は、参加者を増やしてもっと大会を盛り上げていきたいと思っています。



優勝チーム

長崎県立長崎北高等学校
北高F
中俣 浪漫 後藤 優弥



準優勝チーム

長崎南山高等学校
SSS
平山 卓磨 今泉 慎太郎

鹿児島大会

12月19日(日)開催

主催 鹿児島銀行
会場 かぎん会館with

参加校一覧 ラ・サール高等学校、学校法人希望が丘学園 鳳凰高等学校、
学校法人川島学園 鹿児島実業高等学校、
志学館高等部、鹿児島県立鶴丸高等学校、
鹿児島県立鶴翔高等学校、樟南高等学校
参加チーム数 26チーム(7校)

運営スタッフ感想 昨年度全国優勝を出した地方大会として、参加者もスタッフも気合を入れて臨みました。最後までハラハラドキドキで、サドンデス勝負で決着!昨年に負けず劣らず大変な盛り上がりみせた大会となりました。参加者の皆さん、関係者の皆さん、運営へのご協力ありがとうございました。



優勝チーム

ラ・サール高等学校

チーム濱吉

吉本 純平 濱田 諒



準優勝チーム

鹿児島県立鶴丸高等学校

15-BOYS

中原 大 芝田 健人

沖縄大会

12月19日(日)開催

主催 沖縄銀行
会場 沖縄銀行 本店 5階ホール

参加校一覧 沖縄県立浦添商業高等学校、沖縄県立沖縄盲学校、沖縄県立中部商業高等学校、沖縄県立那覇商業高等学校、沖縄県立北山高等学校、沖縄県立名護商工高等学校、学校法人興南学園 興南高等学校、学校法人尚学学園 沖縄尚学高等学校、球陽高等学校、具志川高等学校、糸満高等学校、昭和薬科大学附属高等学校、美来工科高等学校
参加チーム数 51チーム(13校)

運営スタッフ感想 今年も参加チームが40チーム以上あり、大いに盛り上がりました。早惜クイズに答えて正解に喜ぶ生徒や、優勝まであと一歩のところ涙を飲んだ生徒など、白熱したシーンがいろいろありました。でも、参加した生徒ひとりひとりが楽しく、一生懸命な姿は、今年も大会を運営できて嬉しく思います。



優勝チーム

昭和薬科大学附属高等学校

ビルツシャフト

又吉 康雅 松元 雄大



準優勝チーム

昭和薬科大学附属高等学校

チーム☆いざなぎ

高倉 那奈 兼島 遥



社会にでる前に伝えたいこと

高校生の皆さんに、金融や経済のことを知ってもらいたい！

北國銀行は金融経済教育を積極的に行っています

- ① エコノミクス甲子園石川県大会に10チームが参加しました
- ② エコノミクス甲子園全国大会でも石川県大会優勝チームが健闘！
- ③ 銀行員が講師となり、石川県内の高校で授業を行っています
- ④ 高校生のインターンシップにも毎年協力しています



 北國銀行

物やお金は、時に不可抗力で
無くなることがあります。
ですが知識や知恵に裏打ちされた
「生きる力」はなくなることは
ありません。

がんばれ日本

がんばれ東北

未曾有の大災害に負けず人生を切り開いていく若者をエコノミクス甲子園は応援していきます。

エコノミクス甲子園は各地の銀行の地域への貢献として、定着しつつあります。全国で23の地方大会を主催いただいた各銀行様へ、この若い世代に生きる力をはぐくむ事業を共に行って頂いたことを感謝申し上げます。

1 日目

■一日目／第一ラウンド・筆記クイズ

第五回エコノミクス甲子園全国大会の初日、全国各地から24の代表校が東京に集まりました。集合場所は、表参道のオーバルビルにあるナジックプラザです。今回は、前回から連続で出場しているチームが少なく、ほとんどのチームが初顔合わせでした。各チームとも緊張した面持ちでライバルチームたちと自己紹介をしていました。自己紹介が終わり、突然高校生たちに指令が与えられました。それは、「日本経済を再生するには、どのようにすればよいのか?○○立国として日本を活性化させる為のステップを考えなさい」というものでした。これが翌日行われる「プレゼンクイズ」の「問題」になります。高校生たちは、24チームが4つにグループ分けされ、示されたいくつかのテーマの中から扱いたいテーマを選びました。この後は、ここで分けられた4つのグループで協力し合って競技をしていくことになります。グループ分けの後、株式会社ジェムコ日本経営の大星様、青山社中株式会社の遠藤様、元タイガーアジアマネジメントの福井様という識者の方を招き、「これからの日本」をテーマにした講演を聞きました。講演を聞いた後は宿泊所に移動し、講演内容や文献を参考にしながら、それぞれのグループでプレゼンテーションの作成に取り組んでもらいました。各グループとも夜遅くまで時間をかけてプレゼンを作成していました。作成する過程で各グループとも連帯感を深めていったようです。また、プレゼンテーション作成の途中で、第一ラウンドとなる筆記クイズが行われました。筆記クイズで獲得した点数は後のクイズラウンドでの持ち点となります。難易度の高い問題でしたが、各自一生懸命取り組んでいました。



2 日目



■第二ラウンド・伝言クイズ

二日目の朝、高校生たちは「会場行きのバスの到着を待つ」というスタッフの誘導により会議室に集められました。そこで行われたのは何故かラジオ体操。しかし、ラジオ体操のかけ声が途中から変わり……いきなり始まったのが第二ラウンド・伝言クイズでした。各グループの12名全員が縦一列に並び、最後尾のメンバーのみが問題文を読む事ができます。その問題文(もしくは答え)を自分の前の人に順々に伝えていき、制限時間内に先頭の人に伝えなければならないというグループ対抗で行うクイズです。長くて複雑な問題文や答えを、素早く正確に前の人に伝えなければならない為、チームワークが試されます。抜き打ちでクイズが行われたので驚いていた高校生もいました。この伝言クイズの後、本会場の六本木ヒルズへと移動しました。



■第三ラウンド・ビジネスマナークイズ

この第三ラウンドからいよいよ六本木ヒルズでの競技開始です。開会式を終え、最初に行われたクイズが第三ラウンド・ビジネスマナークイズでした。全国大会に参加していただいた地銀の行員様にご協力いただき、様々なビジネスシーンを再現したロールプレイングVTRを作成いたしました。そのVTR内に含まれているビジネスマナーの間違いを当てるクイズです。高校生にとって普段あまりなじみのないビジネスマナーであった事もあり、苦戦している高校生が多かったです。その一方、見事に正解する高校生もあり、会場の皆さんにも楽しんでいただけました。



■第四ラウンド・プレゼンクイズ

第四ラウンドはいまやエコノミクス甲子園の名物ラウンドとなっているプレゼンクイズです。前日から準備をしていたプレゼンテーションをいよいよ発表するのです。たくさんの観客がいる中でのプレゼンテーションであり、ステージ上の高校生たちのなかには緊張した面持ちの高校生もいましたが、どのグループも練りに練った自信あふれるアイデアであったようで、高校生たちの姿は自信に満ちあふれていました。また、どのグループのアイデアもユニークでとても興味深い日本活性化プランでした。



■ 第五ラウンド・供託クイズ

ここまでのラウンドでは、高校生たちはグループのメンバーと協力をして決勝進出を目指していました。しかし、このラウンドでは突然今まで一緒に戦っていたグループ内のチーム同士で争うことになってしまったのです。「昨日の友は今日の敵」と言う訳です。ここまで点数を多く獲得しているグループほど、決勝ラウンドに進出できるチーム数が多くなります。各グループ内の6チームで決勝ラウンド進出をかけて争うことになりました。このラウンドでは「供託クイズ」というクイズが行われました。1問出題されるごとに、全チームから5点を供託金として徴収します。その供託金は問題に正解したチームにより山分けされます。(供託金が正解チーム数で割り切れなかった際は次の問題へ繰り越しとなります)このラウンドはスケッチブックに答えを書いて解答するボードクイズ形式になっていました。各グループ6問ずつ出題され、全問終了した時点で得点が高いチームから順に決勝ラウンド進出です。つまり、正解したチーム数が多ければ低い点数しか獲得出来ませんが、他のチームが答えられなかった問題に正解することができれば高得点を獲得し、点差を一気に縮める事が可能なのです。どのグループの戦いも手に汗握る展開で、一問ごとに高校生たちの喜一憂する姿が見られました。また、このラウンドで惜しくも敗退となってしまいうチームも出てしまい、悔し涙をこぼす高校生もいました。



■ 準々決勝・ホワイトナイトクイズ

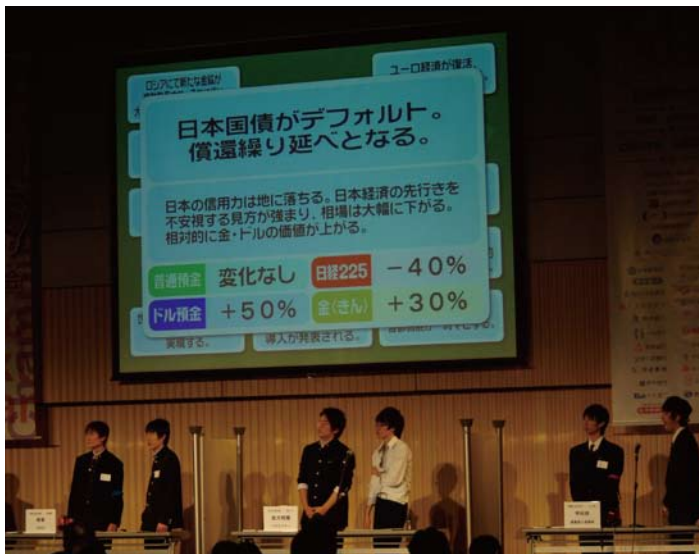
供託クイズでの激しい戦いを勝ち抜いた12チームを待ち受けていたのは、12個の早押しボタンとステージ前方に設けられた謎のスタンドマイク。このラウンドで行われた「ホワイトナイトクイズ」は、まずチーム2人で役割分担をし、「ホワイトナイト」になる人と「カンパニー」になる人を決める所から始まります。各チームの「ホワイトナイト」になった12人は全員で早押しクイズをし、2問正解を目指します。2問正解すると相方の「カンパニー」役の出番となりますが、これが大変!準決勝に進むためには、「カンパニー」役のプレイヤーが「防衛問題」に正解しなければいけません。防衛問題に答えるためにステージ中央のスタンドマイクに立たされ、会場が暗転し、「カンパニー」1人だけにスポットライトが当たるといふ、極限のプレッシャーが高校生を襲います。しかもこの「防衛問題」に不正解となると、早押しのポイントが0に戻って「ホワイトナイト」が早押しクイズをやり直すこととなります。相方に迷惑をかけられないというもう一つのプレッシャーとも戦う事になるのです。このクイズでは早押しクイズも、防衛問題も相方と一切相談が出来ません。2人のどちらかでも金融知力が足りなければ絶対に勝ち抜けられないクイズなのです。エースひとりだけに頼ることが出来ず、高校生にとって過酷なクイズだったかもしれませんが、「チームの2人も金融知力を身につけて欲しい」という我々のメッセージを込めたクイズでした。



■ 準決勝・対決! 論述クイズ

ホワイトナイトクイズを勝ち抜いた6チームには、3つの「お題」が示され、好きなお題と先攻・後攻を選択することになりました。前のラウンドを勝ち上がった順番で、お題と先攻・後攻を決めていきます。この時点で高校生の中からは、「やっぱり来たか〜」との声。そう、準決勝は前回の大会でも行われた論述クイズです。クイズと言っても、このクイズは1つの正しい答えがあるわけではありません。『水ビジネスが経済に与える影響』『消費税が30%になったら』『日本人が株を買わなくなったら』という各問題について自らの考えを論述し、1対1で対決。審査員の支持をより集めたチームが決勝進出となるクイズです。審査員はプレゼンクイズの審査員をして頂いた方や、スポンサーであるラッセルインベストメント・シティのそれぞれの代表の方など5名の方にお願しました。3票以上獲得で勝利となります。対戦では、3戦中2戦で審査結果が3対2という僅差にもつれ込む結果となりました。3つの論述が終わった時点で甲府南・灘・岐阜の3校が決勝行きを決めました。さらにサプライズとして、敗れた3校を対象とした4回目の論述が行われました。『全世界のうち、日本でのみインフレ・デフレがなくなった場合経済はどうなるか』という前代未聞のお題が出された中、唯一日本にとって明るい未来を予想して論述した金大付属高校が4チーム目の決勝進出チームとなりました。





■ 決勝・ポートフォリオクイズ

ニューヨークをかけた決勝は、知識・判断力・プレッシャーをはねのける力・さらには英語力まで試されるポートフォリオクイズです。まずは4チームでフリップに答えを書くボードクイズを行います。ボードクイズで正解をすれば600万円分の資産を受け取ることができます。そして、『普通預金』『金(GOLD)』『日経225』『ドル預金』の4つのうち、どの資産で受け取るかを自分達で決めるのです。こうして各チームがバーチャルのポートフォリオを組んでいきます。さらに、このボードクイズで単独正解をしたり、途中で割り込んでくる早押しクイズで正解をしたりすると、『状況変化カード』を1枚選ぶことができます。そして、その結果によって先程組んだバーチャルな資産の価値が変動するのです。例えば、『ロシアで金脈発見』というカードを引けば、金の供給が増え、金の市場価値が下落するので金の資産額が減ります。『銀行が破たん』を引けば、ペイオフにより普通預金が1000万円以上ある場合、それを超える分だけ没収となります。高校生は『ロシアで金脈発見』『銀行が破たん』等としか書かれていないカードを見て、自らの知識で資産がどう変動するかを予想し、より自分達が有利になるカードを選びます。クイズでありながら、実際の資産運用さながらのことを求められているのです。展開は序盤から灘高校がリード。前回大会でも準決勝まで進出した経験を持つ外山君がいるだけあって、完全な横綱相撲で3チームを圧倒。見事第五回王者に輝きました。



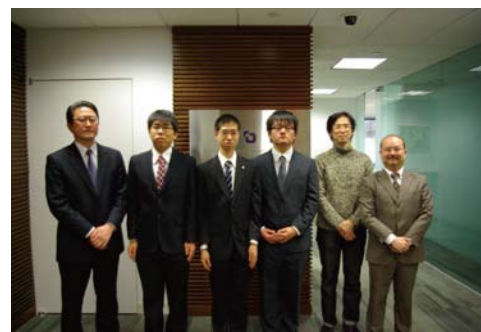
■ 閉会式

閉会式では、優勝した灘高校、準優勝の岐阜高校、第3位の甲府南高校、筆記クイズ第1位の坂野慶太君(名大付属)に表彰状と副賞が贈られました。その場で受賞者のスピーチも行われ、「僕の青春はエコ甲に始まりエコ甲に終わる」「経済を教えてくれた人たち、プレゼンの仲間たちの支えがあってここまで来れた」など、熱戦を戦い抜いた高校生たちだからこそ言える数多くの心打つ言葉が生まれました。その後、プレゼンターをして頂いた皆様による講評を頂き、ここでも「青春は終わりと言った人がいるけど..(中略)..一生が青春です。」など、今をリードする経済人・社会人からの高校生に向けた熱いエールが送られました。このように、エコノミクス甲子園は、ただ金融知力を試す場であるだけでなく、未来を担う高校生たちに現役世代から教訓とエールを送る、そして高校生同士で刺激し合う、そんな学校では体験できない特別な場であり、これからもそのような場であり続けたいと考えています。

前回大会優勝 ラ・サール高等学校 中村 賢史



研修旅行の最初の訪問先は、日本メガバンクの一つ、三井住友銀行グループの三井住友アセットマネジメントである。この企業は投資信託と年金運用の二つを軸とした資産運用会社である。このSMAMのニューヨーク支社は、アメリカの市場や経済の動向を調査し、その情報を東京の本社に報告する業務が主である。支社長の芝田さんのお話の中で金融業に対する行政の規制についてのお話があった。グローバル化が進み、金融当局の協調が進んだことにより、各国の規制の足並みがそろってきているということを知った。しかし、その中でも日本は損失補填の影響で証券法が改正され、より規制がアメリカに比べて厳しく、一方のアメリカでは金融業の投資自体への規制はゆるやかであるものの、運用に失敗した際の刑罰などは非常に厳しい、という違いがある。



また、金融商品を顧客に販売するには必ず、運用の方法、その際のリターン、及びリスクの説明を行うが、その点においても日米間において、違いがあるということも聞いた。日本の顧客に金融商品の説明をする時はアメリカの顧客に対して説明をする時よりも詳しくする必要があるというのだ。というのも、日本人とアメリカ人では金融に対する知識の違いがあり、また先述の規制の強化による運用会社の説明責任の重さというのが理由である。この違いの背景にはやはり、金融知力の普及度の違いや、教育における経済学のウエイトの違い、などがあると自分は考えた。自分は以前より、日本では「お金のことを知る」ということを忌避しがちであり、それがアメリカなどの他の先進国との金融及び経済に関する知識関心の違いになっているのだと考えていた。

投資・または金融についての日本とアメリカの違いについて大いに勉強になった。



日本にも多くの支店が展開されている世界有数の金融機関である。シティではFX業務を取り扱う中山氏と栗山氏の両氏に話を聞いたのだが、その中でも自分の中で最も興味深かったお話がある。

中山氏は大学では環境工学を専攻し理系であった。理系出身の中山氏が何故、現在、日本では文系のくりにされる経済の分野での職業に就いているのだろうか？自分も進路は理系の職業を希望しているだけに非常に興味があった。

そこには日本の企業の人事採用の問題があった。日本の企業は主に「一般職」と「総合職」に分けて採用をする。その分け方は企業に就職できたとしても、自分が本当に就きたい職業に就けない可能性があり、そこに疑問を感じた中山氏は外資系金融機関への就職を希望した。アメリカなどの企業は専門職制度による人事体系の企業が多く、自分のやりたい仕事をやる事が出来る可能性が、日本の企業より高いということである。

また栗原氏は「経済学は理系だ」とおっしゃられた。経済は日本の高校や大学では「文系」のくりになっているが、中身は数学、統計学などの理系要素を多く含んでいる。理系とも、文系ともとれる経済学は非常に幅が広い、と同時に数字を主体とする経済と、人間の感情を主体とする心理学は一見無関係に見えて、ゲーム理論など多くの点で二つは関連付けられている。幅が広く、かつ奥深い学問である、と話を聞いて改めて実感した。

2日目の最初に訪問したのは情報配信のブルームバーグ社である。

まず、この会社で驚いたのが、社内の内装のデザイン性の高さである。案内していただいた種田さん曰く、創業者であり、現在のニューヨーク市長であるマイケル・ブルームバーグ氏の好みであるという。例えば、社員が研修を行うトレーニングフロアに続く通路には、アリゾナの日の出をイメージした蛍光灯を使ったアート作品がある。これはただの飾りなどではなく、出社した社員に日の出に似た光のアートを見せることで脳を目覚めさせるという効果を狙ったものである。また他にも、社員が横になれるように設計したベンチや、ところどころにアクアリウムを設置している。経済の情報というめまぐるしく動き、常に変化するものを扱う仕事は非常にストレスが溜まりやすいという。そこをしっかりとケアしているということである。グーグルやピクサー等も同様に社内の内装にこっていることから、成長する企業は社員を大切にしているのだろう。



ブルームバーグを訪れた後は世界経済の象徴であるFRBミュージアムはアメリカドル紙幣の成り立ちや仕組みなどの解説がされていた。FRBが入っているだけあって非常に警備が厳重であった。ちなみに近くのニューヨーク証券取引所も以前は見学できたものの9・11テロ以降、ここも警備は厳重であった。またその近くの経済博物館も興味深かった。ここも株式市場などのこれまでの歴史を展示しているのだが、展示品の中心にブラックマンデーの時の記録テープや、ウォールストリートジャーナルの創刊号、さらには純金で出来たモノポリーまで展示されていた。

二日目の午後に訪れたのはラッセルインベストメントである。ここは他の投資運用を行う会社と違い、ファンドマネージャーを調査・格付けし、独自の指標でランク付けを行っているのだという。

ここで自分はスタッフのボブ・バルキーマ氏に「ラッセル社で働いていく上で一番重要なスキル・能力は何ですか?」と聞いた。

バルキーマ氏の答えは「情熱」と「細かい所に気がつくことができる」ということである。やはり、このファンド・投資関係の仕事は情熱が無ければ儲けることができず、かつ情熱があるからこそ儲けられるのである、ということだそう。

また、調査対象のファンド・マネージャーの動向・マーケットの動きなどにかける細かな動きに気付き、それを仲間とシェアすることが出来ることが重要であると彼は述べた。

実はこのラッセル訪問の際、自分はいたく緊張していた。というのも、会話は全て英語だからだ。質問も英語、回答も英語で非常に苦戦した。帰りに「もっと英語勉強しておけばよかった」とつぶやいてしまった自分が恥ずかしかった。



研修旅行3日目最初の訪問先はニューヨーク日本総領事館である。財務部の野原さん、専門調査員で大手銀行から出向している森嶋さん、そして野原さんの高校の同級生であり、ニューヨーク・東京の個展の情報を配給するARTBEATを運営している藤高さんの三人にお話をうかがった。

財務部はアメリカの市場動向などを調査し、本国に報告する、という業務が主である。そこでニューヨーク研修旅行の直前に起きた東日本大震災に対してのアメリカ市場の動きなどを聞いてみた。総領事館を訪問した五時の為替レートは1ドル78円台を推移しており、円高傾向にあった。これは今回の震災で保険会社が多額の保険金の支払いを行うため、これまで保険会社が運用していたドル建ての資金やアメリカ国債などを売却し、多くの円を確保するため、円高の傾向にある、ということである。またアメリカの連邦公開市場調査委員会は、今回の震災によるアメリカ市場への打撃は、皆無ではないものの、そこまで大きくは無い、との見解を発表しているとのことである。

また、ニューヨークに住んでいる日本人のネットワークについても聞いてみた。会社同士やビジネスの付き合いなどは強くあるものの、最近はずまっているのだそう。というのも高齢な日本人が増える一方で、海外留学生がどんどん減少しているのが現状だそう。藤高さんや野原さんも若いうちにこれから世界で必要になる英語をしっかりと学び自分の力で世界に飛び込み、大学でよりよい刺激を受けるべきだ。とおっしゃられていた。英語は十分条件ではなく、必要条件である。

最後の訪問先はタイガー・アジア・マネージメントの武神さんである。武神さんの職種は機関投資家から資金を集め運用する、ヘッジファンドのお仕事である。

ここで自分は以前から疑問に思っていたことを質問してみた。日本ではライブドアのニッポン放送買収報道や、NHKのドラマ「ハゲタカ」などでヘッジファンドという職業に対し、ダークなイメージがついているがそれについて、ヘッジファンドで働く方はどう思っているのか?と。答えはそういう一般的なイメージのヘッジファンドもあるが、しかし、「ハゲタカ」などという言葉で一概にひと括りにするべきではないとのことだ。

また、武神さんは他人には無い何かをもってこそ一流という。武神さんは日本の大学を卒業後、アメリカの大学へと進み、現在ご家族とともにアメリカに住んでいるとのことである。日本の大学とアメリカの両方の大学を卒業しているというのは中々にできない。また、武神さんの双子の弟の方も医師でありながら、病院を経営する経営者であるという。そういういわゆる異色の経歴をもつこそ新たなものを生み出す力があるということである。

自分も理系で薬学を大学で専攻したいのだが、薬学と経済学、この全く接点をもたないような二つの学問から新たなものを生み出せる人間に成長したいと感じた。



世界は広い。今回のニューヨーク研修で痛感したことである。地理的な意味での広さだけではない。職業にもいろいろな広さがあった。経済関連の職種でも自分が知らなかったものもあった。物事の考え方にも広さがあった。訪問先で今後の世界経済についての個人的見解をいろいろな方にお伺いしたが、同じ方向性の答えだったとしても、自分が考えもしなかった観点や、あるいは真逆の見解があったりと、一つのテーマに対しての経済のプロフェッショナル達のいろいろな角度からのアプローチに触れることができた。

生き方も広い。今回一緒に旅をした灘高校のお二人や、理系専攻から現在大手銀行で為替売買の仲介をされている中山さん、日本・アメリカの両方のトップレベルの大学を卒業され経済の最前線で働かれている武神さん。などその人のこれまでの経歴と今の職業を知ること、今後の自分へのヒントとなった。

今まで見てきた世界は狭すぎた。自分はずっと、これから「広い」世界を見つめていきたい。

灘高等学校 外山 望



今回の研修旅行最初の訪問先は、SMAMでした。ここでは現地法人の社長以下3名の方にお話を伺いました。金融当局による規制について、先進各国が協調的になりつつあるという話や日米間の投資家の意識の差についてのお話を大変詳しくして下さいました。日本企業の現地法人という立場からの視点はとても参考になるものが多かったです。

次にお邪魔させて頂いたのはCITI BANKでした。ここではお二方にお話を伺うことができました。FXを担当しておられる方のお話の中で僕が特に興味深かったお話は2つあります。

1つ目は日米の採用方式の違いについてです。米国外国系企業では専門職として採用を行うのに対して、日本では一般職、総合職としてしか採用を行わず、入ってみるまで社内で何を任されるのかはかわらないということでした。

2つ目はA→B→C というような論理力はやはり重要であり、そのために普段から頭を使わなければならないということです。一見私たちがよく耳にするような話かもしれませんが、このことを私たちがエコミクス甲子園全国大会で実際に考えた論述問題を例にとりてわかりやすく話して頂き、その解に目を開かせると共に自分たちはまだまだ物事を考え抜かなければならないと思いました。

グローバルサービスを担当しておられる方のお話は本当に興味深く、書きたい内容が非常に多いのですが、その内の幾つかについて感想を書かせて頂くと、まず感じたのは僕らは自らで考え、答えのない道を進まなければならないといけないうことです。いわば“uncharted waters”を若いうちから進む必要があるということです。マニュアル通りに上手にやるのも必要なことではありますがそれだけでは壮大な目標を達成することはできないのだと思いました。次に精神面でタフでなければならないということを感じました。世界で戦っていくには周りが皆厳しくても自分を強くもつことが必要なのだと思い直しました。そしていかにある事柄についてあまりよく知らない方にもわかるように説明するのかがということが重要なことを感じました。人間は物事を不必要に複雑にする傾向がありますが、“What am I trying to say?”を最初に考えてから文章を書いたりしたらいいのではないか、ということをお教えました。



次にお伺いしたのはブルームバーグ社でした。通信・報道機関として発展してきたブルームバーグでは、社が誇る、顧客が情報的に素早く得るために洗練された情報端末を実際に使いながら説明して頂きました。膨大な量の情報をあそこまで整理して提供することを可能にしている社員の方々の能力の高さを実感することができ、驚嘆すると共に、必ずこういった人たちと肩を並べ、越えることができるように日夜努力していこうという向上心が湧いてきました。

アナウンサーも皆さん博士号などを修めた専門家の方であり、投資会社出身の方も普通に採用されているという話も日米の違いを感じて興味深かったです。NYで常にご感じたことなのですが、やはり世界経済の中心でシビアな環境を生き抜き働いている人は本当に偉大です。他に言葉が見つかりません。ほんの少しお話を伺っただけで凄みの伝わってくるような方ばかりでした。CITIの方が言うにはお金が集まる所にあらゆる分野のTop levelの人たちが集まるということでしたが、まさにその通りでした。

ここでの体験を糧にして僕もTop levelを目指していきたいと真剣に思いました。NYで経験した価値観というのは一面の真理に過ぎないのかもしれませんが、しかし、僕は確かに憧れを感じたのです。人間が本当にlevel upできるのは憧れからくる向上心ゆえだと思えます。NYに行けて本当に幸せだったと思えます。

会社訪問の合間を縫って僕たちはFRB Museumと金融経済史博物館を訪れました。どちらも豊富な資料があり、とても楽しかったです。前者では各国・各時代の通貨展示がとても面白かったです。後者では上昇・下落を細かに繰り返しながら株価は長期的には上昇しているのだということを感じて学び、自分たちの持つ「若さ」ということの強みを知ることができました。

ラッセル・インベストメント社ではファンドマネージャーを調査する部門の方から主に話を伺いました。投資機関の方という殺伐としたイメージを持っていた僕にはその方はとても人間性豊かで気さくな方に見え、多くのマネージャーと会い、話を余すことなく聞いて正しい評価を下すにはこのように話すことができる人柄が重要なだろうと思いました。マネージャーリサーチというのを一番に始めたために他社にないノウハウの蓄積があるという話ではイノベーションという新分野の開拓が成功を生み出すのだということをお教わりしました。この話はその後で伺った情熱と細かい所に気付ける能力というgood investorにとって必要な条件にもつながっていると思っていました。またここでは英語で全てやりとりしなければならなかったのですが、自分の語学力の無さを再確認させられ、刺激を受けました。語学研修としてもすごくいい機会だったと思えます。

NY総領事館では経済部、財務部に務めておられる方お一方ずっとアートビートという個展情報を扱っているサイトを運営している方にお話を聞くことができました。

僕たち(僕と沼君)2人の学校のOBとして非常に温かく迎えて頂き、本当に有難かったです。ここではネットワークということと英語・数学の重要性について教えて頂いたことが最も心に残っています。

NYでの日本人ネットワークの縮小希薄化という話は日本自体の雰囲気も反映しているように感じました。同時にしていただいた、高校・大学で培われたネットワークが後々まで生きてくるとい話も大変参考になりました。

英語ができることが今後は必要条件化されていくだろうという話と刺激にはできる限り早く触れることが重要だという話は僕の今後の進路に大きな影響を与えるかもしれません。米国に行くには今でももう遅いくらいなのかもしれませんが、後でお会いしたダイガーアジアマネジメント武神さんのお話と合わせて将来的に米国で暫く本格的に勉強してみたいという強い思いを抱かせるには十分過ぎる程でした。あらゆるものに関係してくる経済学を成り立たせている数学の重要性についても文系ではありますが、私も理解することができ、今後、高校大学と頑張っていく気持ちを新たにすることができました。

入ってすぐにその圧倒的に重厚な雰囲気に驚かされたのが武神さんとお会いしたハーバードクラブでした。ここはハーバード大卒者専用のクラブで、CITIで入れて頂いたExecutive roomと共に今回お訪ねした所の中で場所として強く印象に残っています。

武神さんは日米両方で教育をうけられた方で日米の教育の違いや人材育成について特に多くの時間を割いて教えて頂きました。大学での学部にあまりとらわれてはいけないという話や、日本の教育が日本書記重視なために情報検証をする力が僕たちに不足しがちであるという話をされる一方、日本の受験勉強で培われる地道にこつこつやる能力は浮足立つことなく、的確な投資を行うことなどに生かされるという話を伺いました。ただし決断力もやはり重要な要素であるという話も同時に伺い、またコミュニケーション能力を養うことについて貴重なご意見を伺いました。百人が同じことをやっていたとしたら自分のやっていることも一切価値がないという話もしばしば僕自身感じていましたが、そのことを武神さんに仰って頂き、肝にしっかり命じておかねばならないと思うようになりました。



今回お会いしたほとんどの方に将来中国の経済情勢についての質問をしてみたのですが、本当に多様なご意見を伺うことができ、多角的な物の見方を知ることができました。皆さん多様な経歴をお持ちの方で日本ではめったに聞くことのできない話をして下さり、毎日強い刺激を受けることができました。日米の差について多くの方から聞くことができたことは、今後グローバルな視点で物を見ていくのにとっても役立つだろうと思います。NYで生まれた向上心を原動力に刺激を多く受けられる環境に常に身を置き、頑張っていこうと思います。

今回の研修旅行中にミュージカル「オペラ座の怪人」とメトロポリタン美術館を訪れました。共に本当に素晴らしく、美しかったです。特に自分が熱望して日程に入れて頂いたThe Phantom of the Operaでは本当に感激してしまい、涙がでそうになりました。一生の思い出です。

セントラルパークの中を歩いたり、Top of the Rockの最上階から夜景を見たりすることもでき、NYで個性の強い料理たちと幾度も遭遇したことも非常に貴重な経験だったと思います。

多くの思い出と共にNY研修ももうすぐ終わろうとしています。(今回はこの文章を旅行中に1日の終わりごとに書いています。)最後にこの旅行を主催して下さい、旅中お世話をして下さった金融知力普及協会の方々とお時間を割いて下さった訪問先の皆様方と一緒に旅をした2人に心からの感謝を述べさせて頂き筆を置きたいと思います。長々と乱雑な文章をお読み頂き有難うございました。(2011.3.17NYにて)



灘高等学校 沼 大地



まずは三井住友アセットマネジメントにうかがいました。主に米大陸やヨーロッパの株式や債券についての情報を収集、分析して顧客の資産運用に役立てるための拠点で、日米の金融に対する意識の差からくる事業のあり方の違いなどについてのお話をうかがいました。特に印象深かったのは、これは業務と直接関係はないのですが、中国経済の展望について、話をお聞きしたお三方からそれぞれ異なる角度から個人的な見解をおうかがいできたことです。総合すると、14億という人口は労働力としても市場としても巨大であり、これは大きな強みである。さらに経済的な門戸開放によって裕福な人が増えると裕福でない人はそれを見て富を求めるようになり、そういった状況では経済成長が維持されなければ、社会が不安定化する、そして高齢化によって労働人口が伸び悩む時GDPの伸び悩みが起これば、社会不安が起これるのではないかと、普段見ない様々な面から中国を多角的にとらえることができました。



午後にはシティバンクを訪問し、為替部門では現在の円高をどう見るかという点について特に興味深くうかがいました。貿易黒字国である日本にとって円安は確かにつらいが、円高に耐えられるだけの底力、たとえば内需や、安い外国製品が入ってくる中でいかに製品のコストパフォーマンスを高めるかの方が重要だということでした。その後栗山さんという方にお聞きしたお話では、経済の話だけでなく、日本人にはuncharted water (情報の少ない領域) を切り開く力が欠けている、さらに、いかに面子などにとられずに物事を単純化して考えられるかが大事である、ということをおうかがいました。このお話はこの先のunchartedな人生を歩んでいく上でとても貴重なchartになったと思います。



二日目はブルームバーグとラッセルインベストメントを訪問しました。

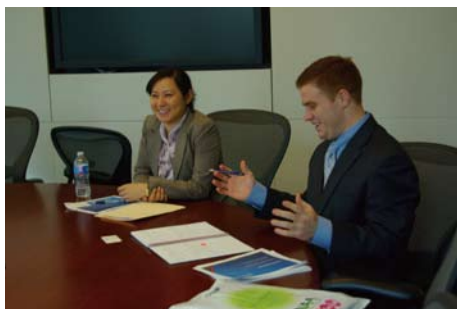
ブルームバーグ本社では主にブルームバーグの情報端末についての説明を受けました。必要なニュースや数字やチャートが膨大な情報の中から選び出されて表示されるこの端末は、経済だけではなく世の中全体の動きを視覚的に理解することができるのではないかと思います。正直欲しいです。

ブルームバーグを出てラッセルを訪ねる前にFRB博物館と金融博物館を見学しました。特にFRB博物館には世界中の古い貨幣が展示されており、歴史好きとしては結構テンションが上がりました。

そしてラッセル、ここだけはお話をうかがう方が日本人ではないため英語でやり取りをしなければいけません。投資する株や債券を評価する一般的なファンドの仕事ではなく、資金を運用してもらうファンドマネージャーを評価する仕事をしてられる方で、この仕事を通じてラッセルは多様な資産を様々な形で多くのファンドマネージャーに運用してもらい、リス

クを分散して着実にリターンを得ているそうです。この仕事は最近他の金融機関も取り入れはじめているそうですが、ラッセルには既に長年にわたる経験やデータの蓄積があるのでそれらの機関に対しては有利であるということでした。また、ラッセルで働くときに何が重要かという問いに対しては、本当に金融の仕事が好きであるという情熱、そして株価や為替といったデータの細かいところへ気づく能力が必要であるというお答えをいただきました。前者は当然として、後者が必要とされるのは、様々なデータの動向には必ずおかしな点があるので、いち早くそれに気づくことができれば、他の人に先んじて利益を上げることができるからだ、ということでした。

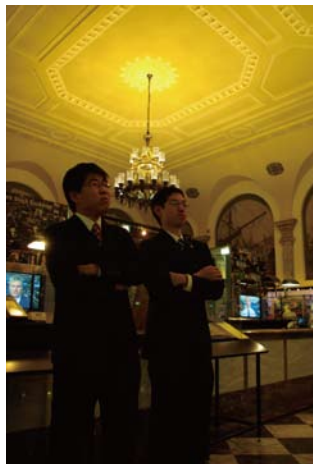
これら二つは金融の世界でなくても生きる上で必要になってくると思うので、これから確実に身につけていきたいと思います。



三日目はまず日本領事館を訪問しました。お話をうかがったのは財務部の方で、アメリカの金融動向や市場についての情報を扱ってられるほか、現地の投資家にたとえば日本と中国の法整備や資産流動性の違いなどを挙げて日本への投資を呼び込む広報活動を行ったりもされているということです。このような場所なのでリーマンショックのときはかなり大変だったのだらうと思いましたが、実際は領事館も大変なのは確かだったけれど、リーマンが日本に抱えている資産がアメリカに引き揚げられることなく債権者に償還されるように保護したりしなければならぬ日本の当局の方がずっと大変だったそうです。

昼にはハーバード大出身者しか入れないハーバード・クラブでタイガーアジアマネジメントの方と食事をつつお話ししました。日本株担当の方で、今回の地震で日本株が不安定になっているのは必ずしもマイナスではなく、株価が大きく動くのは利益を上げる機会でもあるとおっしゃっていました。経済に限らず様々なことについて興味深いお話をうかがったのですが、特に私が共感したのは「レアな人になればいい」というお話でした。自分の希少価値を高めたいということは前から思っていたのですが、実際にその考え方で成功できるものなのかという不安をどこかにずっと抱えていました。今回、社会で大きな活躍をされている方が自分と似たような考えを持っているということで、自分の考えに自信を持たせたような気がします。

このNY研修で私が得たものは、知識や経験はもちろんそうなのですが、何よりも大きいのは様々なことに関するこういった自信だと思います。





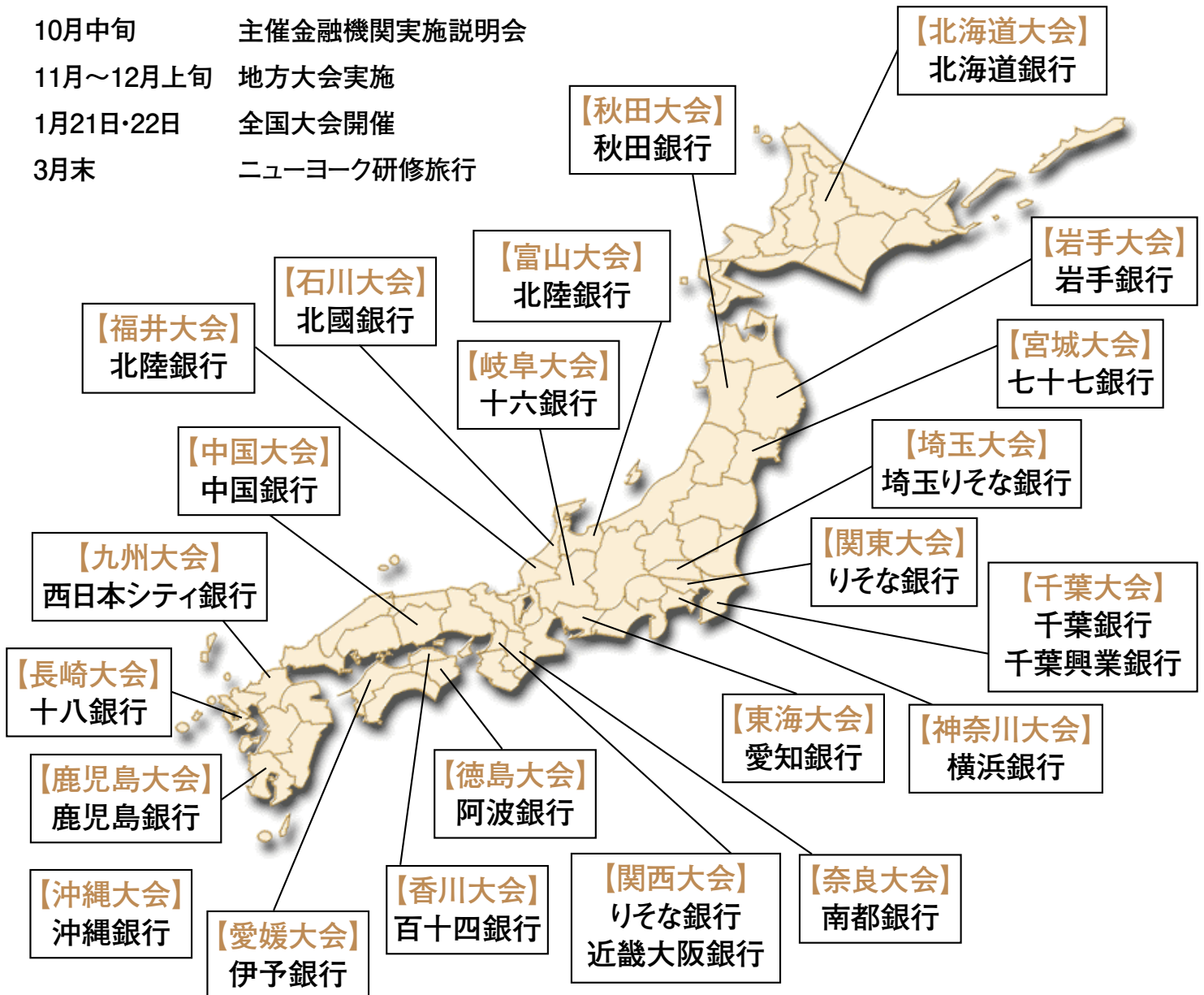
第六回大会について

第六回エコノミクス甲子園を予定しております。より多くの地方大会を開催し、日本中の生徒に金融教育に触れる機会を提供していきたいと考えております。

第四回大会より、各金融機関は地方大会を主催し、全国大会の協力を行うという形での参加を頂いております。

予定

- 6月24日 主催金融機関募集説明会
- 9月1日 参加者募集開始
- 10月中旬 主催金融機関実施説明会
- 11月～12月上旬 地方大会実施
- 1月21日・22日 全国大会開催
- 3月末 ニューヨーク研修旅行



第五回大会 会場一覧



全国大会感想 Final tournament report



北海道大会代表 北海道札幌西高等学校二年
上野 翔太

僕は今回エコノミクス甲子園に出場して、とてもたくさん楽しみ、学び、苦労しました。

様々なことがありましたが少しジャンルごとに紹介したいと思います。

一つめは、エコノミクス甲子園の一番の醍醐味であるクイズです。クイズの種類は筆記テストや伝言クイズ、マナークイズなど大変面白いクイズが多くてすごく楽しめました。その中でもマナークイズは実際にやったクイズの中では今までにない新しい感覚でとても面白かったです。私たちのペアは供託クイズという得点の分配をするクイズで負けてしまいました。その事で思ったのは努力をおこたってはいけないということです。なぜなら僕達が落とした問題というのは難問ではなく、きちんと勉強していれば落とさずにすんだ問題だったからです。

そして二つめはプレゼンテーションです。一日目に課題当てとチーム分けが行われ、一チーム十二人で翌日までに発表できる形にまとめる、というものです。私達のグループは貿易でのように立国していくか、というプレゼンターマが与えられました。皆で協力して徹夜して一つの物を作るという経験は滅多にできません。エコノミクス甲子園のなかでも特に心に残りました。

最後の三つめは友情です。クイズを通して、又、プレゼンを作ることを通して、参加者達は仲良くなり、友情を深めました。エコノミクス甲子園は自然とそういう場になるということです。他の二十三地区の代表は恐るべき敵であり最高の仲間でもあるのです。

いま紹介した他にもたくさん楽しいアクティビティがあります。もしエコノミクス甲子園に参加する機会があれば楽しみにして下さい。

北海道大会代表 北海道札幌西高等学校二年
小原 一馬

本当に楽しかった！始めはどうなることかと思っただ、無事に終えることができほっとしている。優勝は勝ち取れなかったけども絆や友情、信頼が生まれて充足感でいっぱいである。

エピソード。我々二人は、北海道大会を勝ち抜き、全国大会へと出場することとなった。人間はあんなに頭の中が混乱するのかわからない訳が分からなかった。これが北海道大会での感想。

第一日目。自身初の東京ということで、少し舞いあがってしまったかも。青山に集められた時、僕は恐怖感を抱いた。それはなぜか。なんとスケジュールが秘密にされているではないか。これはつらい！東京という砂漠に一人放り出されたと思った。泣きそう。帰りたいとも思ったね。あれは。周りが知らない人達ばかりだし。そして、プレゼンのチーム編成。今考えても、本当にあのチームで良かったなと感じる。この日の夜の会議の白熱加減といったら、もう大変だった。とにかく、一日目は波乱で終了した。

第二日目。まず緊張。僕の勉強不足が影響したからなのか胸が張り裂けそうだった（これは言い過ぎかな？）。まあ、分からない問題の多さ！でもマナー問題は楽しかった。これは本音。しかも、チーム内で戦うことになるとは。少し事務局を恨もうかな。結果、負けてしまったが、悔しくはない。全力を尽くしたから。応援も楽しかったし、感動させられたからというもあるし。

エピソード。勝つ者もいれば、負ける者もいる。これは事実だ。笑顔や涙に溢れた日々を過ごしたのは初めてだった。人生を楽しく生きるヒントを教わった。最後に、こんな支離滅裂な文章、ごめんさい（笑）

岩手大会 岩手県立盛岡第三高等学校二年
高橋 桂太

私達盛岡第三のチームは第一ラウンドの筆記テストで合計で二十七点しかとれませんでした。確が最低得点だったと思います。まあ初めから勝てる気なんかしていなかったし、ここまで勉強をしないで全国大会で戦ったというのは私にしてはよくやったと思います。だからもう結果は忘れます。結局のところ私が一番述べたいのは皆で考えることの大切さです。

よく「結果そのものよりもそれに致る過程が大切だ。」なんていう人がいます。全くその通りのことなのかもしれませんが、「全然勉強しなかったのに何かがあって模試の成績が伸びちゃった」なんてことはまああると思うんです。わりと普通に。そうすると私みたいにロクに努力もしないでエコノ甲に出してしまった人間はただその一時の喜びに浸るわけです。ああなんて単純で愚かな人間なのか。本当にどうしようもないですね。でもそんな私も今回のプレゼンに関してはそうではありませんでした。プレゼンテーションってのは準備をしなきゃ何も始まらないわけじゃないですか。それなのに結果だけ望んでも何も生まれないですよ。そのくらいは私にも分かりました。だから議論に参加しました。周囲の人達は本当に冴えている人ばかりで何を言っているのかわからない時もありました。でも私も私なりに意見をぶつけてみました。そしてその意見が議論に反映された時に思ったのです。「学力の違いなんて議論には何も関係ないのだ。」と。

私達のプレゼンは評点的には最下位でした。でも、私は私達のプレゼンが一番だったと思っています。ほんの少しの間でも集った仲間達が本気で意見をぶつけ合っただけでよかったもの。自他の交流という過程を経て生まれた結果が大切なのだと実感できました。

岩手大会代表 岩手県立盛岡第三高等学校二年
矢羽 英敏

今回このエコノミクス甲子園に参加して感じたことは「人との関わり」だと思う。この大会運営は、全国の数多くの企業や銀行、学生スタッフのおかげで成り立っていると感じた。また、4つのチームに分かれた時には、チームのまとまりを感じた。一つのものに向かっていく感じがした。正直、チーム制と聞いた時、戸惑った。経済に詳しいわけでもなく、他の面でも力をもっているわけではないのに、他のチームと一緒に迷惑にならないのが不安だった。しかし、その不安もすぐに消えた。一つ意見を言うだけで気持ちが楽になった。自分が意見を言ったらみんな聞いてくれたし、自分の意見に対する意見もくれた。それが嬉しかった。夜遅くまで起きているのは辛いものもあったが、あのチームだったから楽しくもあった。金大附属が決勝に行ったのは本当に嬉しかった。

しかし、今回の大会では自分の知識量の少なさに落胆した。決勝戦においては、全ての問題が分からなかった。準決勝では、全チームの力に圧倒された。「次回」はと言いたいが、受験のために参加ができないことを残念に思う。それでも、今大会を通じてつけた力を、少しでも多く活用していきたい。

今回エコノミクス甲子園全国大会に出場できたことを誇りに思う。自分の力の無さを実感できたり、関わることのない人とも出会うことができた。とても楽しかった。

秋田大会代表 秋田県立秋田中央高等学校三年
谷藤 圭太

私がエコノミクス甲子園を知ったきっかけは友人の富田の一言でした。最初に誘われ、すぐに了

解した時のことを今振り返ると、あの時出場すると言って本当に良かったなと思います。その理由として、まずなによりも高校生活最後の年にこうしていい経験をさせてもらうことができた、ということ。私と富田は、硬式野球部に所属し、三年間甲子園という大舞台を夢みて、毎日練習してきました。惜しくも夢は叶いませんでしたが、仲間と過ごした日々は一生忘れることはないでしょう。それと同じように、このエコノミクス甲子園で出逢った班の皆、大会運営に尽力してくださったスタッフ、各銀行の皆様との三日間も決して僕の心から無くなることもないでしょう。

また大会に出場している生徒の中には三年生があまりいなく、本来私達のチームが、班を先導するべきだったのに、後輩の皆の率先力や、表現力にたぐり倒されるばかりで生半可な気持ちでした。頼りがいのない私たちでしたが、みんなと一緒にプレゼンテーションを作り、様々なゲームをすることが出来て本当に楽しかったです。有難う。

これから私達は新しい進路に向かっていくわけですが、今回の経験を糧とし、将来世界に通用する人材になれるように頑張りたいと思います。

今回は本当にお世話になりました。

秋田大会代表 秋田県立秋田中央高等学校三年
富田 克明

即直に楽しい三日間だった。クイズだけではなく、東京の町並みに目を向けたり、違う県の生徒との関わりを持つことができたりと、充実した時間を過ごすことができた。初めは生徒達の間に微妙な距離感があったが、グループで行動するという企画のおかげでとても早くその距離が縮められた気がする。

私たち秋田チームは予選で敗退し、全国との間にある高い壁の存在を痛感した。しかし、クイズに参加するにあたってこの大会の本当のねらいのようなモノも分かった。金融知力を身につけることで日本と自らの生活をより良い方向へ導ける人間になる、ということだ。また全国大会に参加したという経験が生き抜くためのヒントになっていることも明らかとなった。大会前日の講演では、たくさんメモをとらせていただいた。自分の体験談のように頭に思い浮かぶようなエピソードだった。ドコモの元社長の方はとてもインパクトがあった。今の時代の若者は知識などが先走り、それよりも大切な本筋を見失っているよと教えていたのだ。とても心に思う。

この他にも文章にしたいエピソードがたくさんある。しかし、大人たちの願いや、自分たちがどうあるべきなのかというのが最もよく分かった三日間だった。エコノミクスという名前はあるが、金融や経済の枠を超えた大切なことを教えてくれる素晴らしい大会だった。もっともっとこの大会が有名になれば日本が、そして自分たちが変わっていく道を見つける手がかりになってもらえると思う。三日間本当にありがとうございました。

宮城大会代表 宮城県仙台第二高等学校二年
坂口 涼

私が三日間を通して一番感じるの是全国大会に来て良かったということである。特に予選のプレゼンでは、お互いをまだよく知らない人達が与えられたテーマについて調べ、意見を出し合い、練り上げてひとつの作品を作り上げた。その中でも特に意見を出し合うことが刺激的だった。地方予選を勝ち上がった猛者達の意見はどれも的確なもので、ますます自分の考えを深めることが出来た。また、テーマについて真剣に考え、話し合っていくうちに、仲間同士での絆が深まっていった。それ以外の形式のクイズも互いの全力をぶつけ合い、切磋琢磨出来るものだった。





全国大会感想

Final tournament report



全国大会で学んだことは社会に出てからのコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の重要さである。とりわけ金融・経済の分野はこれらの能力が必要不可欠である。例えば、取引先の人と会う際に、言葉遣いや振る舞いかたを知らなければその企業との関係が悪くなり、仕事に悪影響を及ぼしてしまいかねない。また、プレゼンテーション能力が低ければ、優れた案や考え方を他人に伝えることができない。このように、金融・経済と対人関係とは切っても切れない関係であるということを感じた。

私は将来金融・経済の分野に携わっていきたくて考えている。今回の経験は、私の目標をより一層具体的にしてくれるものだった。私はこれまで、金融・経済は数字だけを追いかけ、やもすると対人関係は二の次になってしまうものだと思っていた。だが、今はもう断言できる。一番大事なものは人と人との信頼関係や絆である、と。今回、私はさまざまな面で成長したと実感している。このような機会を設けて下さった多くの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

宮城大会代表 宮城県仙台第二高等学校二年
高野 研

エコノミクス甲子園、宮城県代表として東京の地に立つから、まだ四十五時間程です。

しかし、丸二日も満たないこの時間は、とても目まぐるしく、非常に密度の濃いものでした。

仙台駅から案内をして下さった七十七銀行の方、同じ新幹線だった岩手、東京駅で迎えて下さったスタッフ、他のチーム、最初の講演会場で近くの席だった岐阜や灘、同じグループになった人達…と、数えきれないほどの出会いを、そのたった一時間程の間にしました。

孤立無縁とも言える状況の中で行われた、プレゼンテーションの内容を決める話し合い。しかも、私のペアが図書館に行く組へ名乗りをあげたため、私は一人で会議に望むことになりました。

会議の中でまず感じたことは、とにかく全員のレベルが高いということです。渡された資料にある知識はもちろんのこと、昨今の世界情勢や、各国の経済の特色、プレゼンの論題となった観光分野で成功した例など、様々な事を、当然のごとく口にしていました。知識不足を痛感した私は、今思うと、何度ものはずれのことを言って、場を乱してしまいました。

会議はその後、いくつもの講演と夕食をはさんで、深夜、次の日の朝、ととても長く続きました。その頃になって気が付いたことは、知らない人同士だった相手との距離が、縮まっていたことです。

前日の夜までは、隣に座っているのは自分のペアだったのに、それがなくなり、皆が分け隔てなく、自由に並んでいました。出合ってから半日でこんなに仲良くなれるのかと、少し驚いたことを憶えています。

その後、大会本番に際しても、協力してプレゼンを行ったり、逆に、チーム内のメンバー同士で戦うことになったりもしましたが、「恨みっこ無し」と言い、自分達を負かせて勝ち進んでいったチームを応援したりと、もはや立派な仲間となっていて、とても嬉しく感じました。この貴重な仲間との出会いを大切にしていきたいです。

埼玉大会代表 早稲田大学本庄高等学校三年
大橋 俊介

僕はそもそも、今回のエコノミクス甲子園に参加するつもりは全くなかった。昨年度参加していたが、経済への嫌悪感、卒論を書かなくてはならない等の理由により、参加は拒否していた。

埼玉大会当日、僕はこれから苦しい時間を過ごすであろう仲間達の事を考えて、ウキウキしながら

応援者として出席していた。ひねくれているのだろうが、仲間が苦しい時に自分は苦しくないというのは幸せを感じる事ができる。しかしながら今の僕のパートナーである大場君のパートナーが風邪をこじらせて全く声がでなくなってしまった。僕はあの時大場君のある一言が忘れられない。

「もし代わりをできる人がいれば、その人が代わりにできることはできませんか。」

僕はチーム「エコノミスト」の一員として埼玉大会に出場した。まさか優勝しないだろうと考えていましたが、さすが大場君。早押しクイズでは問題が読み始めるとすぐにボタンを押し、ボードクイズではサラサラとペンを走らせ、あの浦和高校をやぶり見事に優勝を勝ちとってみせた。彼はやってくれたんだ。おかげで経済を好きではない僕は全国大会に行くことになった。この事自体はとてすごいことであり、名誉な事であるというのは僕もちゃんとわかっていた。ただ僕は、あの日のあの瞬間、高校で一番最初に話した友人に、三年間一緒に政治経済部で頑張ってきた彼に、初めて殺意を覚えてしまった。

そして全国大会に出席し、結果は準々決勝敗退、ベスト十二に残るという成績を残した。

ただこれを書いている今、なぜ僕がこんな事をしているのか少しイライラしている自分がいるのがわかる。最後に、皆さんお疲れ様です。正直な気持ちを書いたので、どうか怒らないで下さい。

埼玉大会代表 早稲田大学本庄高等学院三年
大場 賢史

エコノミクス甲子園の全国大会に出場したのは自分としても学校としても初めての経験であった。そのため体験することのほとんどが新鮮で驚かされることばかりであった。

私が初めてエコノミクス甲子園に参加したのは高校初めの時である。学院の公民科の先生の紹介で大会の存在を知り、参加した。自分自身の結果は惨々たるものであったが、学院のチームのうち一つが埼玉大会準優勝を達成した。優勝には及ばなかったため、学院としても、来年こそはという思いだった。そして今年、初めて全国大会に出場することができた。

やっとの思いで参加した全国大会であったが初日からいきなり徹夜でプレゼンの準備を行ったりと、想像以上に過酷なものであった。しかし、プレゼン準備のためのディスカッションの中で、他校の参加者達の面白い意見を様々聞くことができたのは非常に有意義であった。私は主にディスカッションの際の進行役、まとめ役をしていたが、全ての人が十人十色のアイデアを持ち、それを言葉にしてまとめあげ、一つの作品として提出するという作業は、まるで大学のゼミのように面白かった。

また一緒に作業を行う中で、普通のクイズ大会のように、ライバルとして接するだけでは分からないような仲間の一面を知ることができた。例えばディスカッションする中でこの人は理系分野にも強いのかということが分かったり、この人は自分の意見を言葉にするのが上手いなということが分かったりというようなことである。

2日目の後半戦ではライバルとれた戦うことになったもののプレゼン準備で得られた仲間とのつながりは一生の価値のあるものである。

初出場で驚きや困惑も多かった全国大会だが、プレゼンで出会った仲間、大会を運営して下さっている協会やスタッフの方々など、多くの人々とのつながりによって大会が成立していることを実感できた3日間であった。

千葉大会代表 渋谷教育学園幕張高等学校二年
尾崎 真史

私は第四回エコノミクス甲子園千葉大会で敗北

して以来、今度こそは！と思って一年間全力で勉強してきた。しかし、私を待っていたのは、全国準々決勝での敗北だった。今でも最後となった問題を押ししてしまったことは非常に後悔している。押さなければ、スルーしてれば準決勝進出だったからだ。

しかし、そんな悔しさが残る大会でも、私はその敗北の中から新たな道を見つけることができた。それは、「人とのつながり」だ。この不安定な社会構造の中で、どうしても冷徹で、人と人との関係などどうでもよいものに思えてしまう経済。しかし、その根底にはやはり数値では測れない人とのつながりや心があることを私は全国に参加して思い知らされた。全国大会で出会った素晴らしい仲間たちと夜通し議論を交わしたり、チーム戦でプレゼンをした時のあの感動や喜び、あれはまさに本当の意味での経済だったと思う。だからこそ、この仲間は今後とも大切にしていきたい。それが、自分の未来を明るく照らしてくれるように思うから。

敗れて一日しか経っていない今は、優勝できなかったショックが大きく残っている。しかし、それもすぐに癒える。あとに残るのは大切な仲間と素敵な思い出だ。これが、エコノミクス甲子園の素晴らしさだと思う。改めて、一言叫びたい。

エコノミクス甲子園は、最高の大会だ！

最後に、この素晴らしい大会を主催してくださった金融知力普及協会の皆様、千葉銀行、千葉興銀の皆様、全国で出会った素晴らしい仲間、そして応援してくださった皆様に心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

千葉大会代表 渋谷教育学園幕張高等学校二年
松本 悠哉

今回のエコ甲に参加して、最もたいへんだったこと。そして、最も印象に残ったことは、プレゼンテーションの準備だった。集合してすぐにグループを作り、出会う間もない班員たちと供に一つの作品を創り出す。最初はぎこちなく、私もなかなか発言できなかったが少しずつ打ち溶けてゆくことで、議論は活発になっていった。

このプレゼンテーションの作成こそが、エコ甲が開催される、そして私たちの参加する意義の濃厚に圧縮されたものであると思われた。その意義について考えてみようと思う。

まず第一に、全国の優秀な高校生を集めて、徹底的に議論させるということ。集まった生徒はみな個性的で、柔軟な発想を持ち、広い知識を身につけていた。彼らと何時間も真剣に話し合うことはとても刺激的だった。特に今回のテーマは「日本経済の建て直し」であり、そのようなテーマについて日本の未来を担うような人々と語り尽くせたことは、一生ものの経験となると思う。

第二に、各地から集まった人と共に活動できた、という点である。私たちのグループは北海道から鹿児島まで、実に様々な地域から人が集まっていた。普段は千葉の学校に通っており、千葉や東京に住んでいる人としか交流のない私にとっては、多様な価値感、文化を知ることができたのは、大きな収穫だ。また多種多様な「班員」が、「仲間」「友人」となったのも大切なことだ。

こままでのところ、経済のこと、金融知力の向上については触れなかった。しかし、金融知力というのは人を幸せに、豊かにするための一つの手段であるのなら、私はエコ甲によって成長できたのだから、元来の「金融知力によって、人を幸せに、豊かにする」という目的を達成できたと思う。

このような貴重な機会を与えて下さった関係各所の皆様、ありがとうございました。



全国大会感想 Final tournament report



関東大会代表 山梨県立甲府南高等学校二年
溝口 聡

私は、公民科が苦手であった。正直なところ、あまり興味の湧くものとは思っていなかったのである。この大会に参加した理由は、クイズが大好きだからである。自分たちは、予選が関東大会であるということもあってか、地方予選に向け、様々な方々の協力を得ながら、勉強を進めていった。少しずつではあれど、金融知力がついてきているのだなあと実感しつつもあった。予選では、ペーパー・早押し共に不振で、次のラウンドにもギリギリでしか進むことができなかった。それでも、パートナーを信じ、協力合せて、強豪校から優勝をまぎとることができ、見事に全国出場を決めたのだ。

しかし、その時自分たちは、まだまだ金融知力が足りていないと実感していた。なまじっかの知識だけでは解けない、一つ踏み込んだ問題には手も足も出ない、そんなことが多かった。その上、まともな対策に時間を割けぬまま、全国大会当日を迎えてしまった。

全国大会は、サプライズ的な形式や突然のクイズばかりで、驚きや興奮が非常に掻き立てられた。プレゼン制作では一晩中アイデアを出し合い、他の学校の方々と仲良くなることができた。供託クイズではそんな仲間と戦わねばならず、正直心臓が止まりそうであった。ホワイトナイトクイズで一抜けできたこともとてもうれしかった。論述では限られた時間の中でパートナーと協力して論理を組み立て、悲願の決勝進出を決めるに至った。大会に参加することを考えていた当初は、自分たちがまさか全国大会に進出して、さらにはそのフィナールラウンドにまで残ることができるなどと考えてもいなかった。

しかしながら、私たちは自分の甘さを痛感することになった。優勝のスコアには遠く及ばないどころか、正解を満足に得ることでもできなかった。考え、活用する力をつけることは、わずかながらでもできていたのかもしれない。だが、知識という金融知力の根幹となる部分で、自分たちの努力が足りていなかったことを後悔した。

結果として、第三位という、私たちにはもったいないほどの成績を残すことができた。しかし、それよりも、この大会に参加して、金融知力をつけてきたことに大きな意義があったと思う。私は、このような機会を与えてくれた主催者やスポンサーの皆さま、協力して下さった方々、そして何よりも、一緒にがんばってきたパートナーに感謝したい。

関東大会代表 山梨県立甲府南高等学校二年
廣瀬 哲

今回のエコ甲は、私たちが関東代表となり全国大会に出場した時点で十分奇跡だった。それどころか、この全国大会では三位入賞まで果たしてしまった。なぜこんなことができたのだろうと、今ではとても不思議な気持ちだ。

しかし、今は結果よりも全国大会を楽しく過ごせたことの方が強く印象として残っている。徹夜の原因となったプレゼンクイズの準備では、即席で作られたグループAの仲間と打ち解けて良い物を作れた。大会中も互いに励まし合い、辛い日程ではあったがそのお陰で乗り切ることができたのだと思う。元々知り合いである友人以外との関係（進行上半ば強制的にでも）持てたというのは、エコ甲を終えて甲府に帰る自身にとって、これから生きていく経験になると思う。

また、エコ甲そのものに関しては、普通のクイズ大会と違い面白いものだったと思う。クイズでプレゼンや論述が出題されたことは意外に感じられた。その上、この二日間は何度もスタッフに騙され、その度に思考を入れ替えなければならなかった。しかし、ただ答えるだけではないこのクイズ

の形式は、私に今までにない経験をさせてくれた。一番驚いたのはグループA内で「潰し合い」をしなければならなかったことだが、そのラウンドの後は互いをたええ、私たちが勝ち進む度に応援をしてくれた。その点が、私は一番嬉しかった。

私は来年受験があるので、この大会には参加できない。それがとても残念だ。だが、貴重な体験をさせてくれたエコノミクス甲子園に、これからも多くの人々が参加すればいいと思っている。来年は私たちが後輩を送り込む。是非、楽しみにしてほしい。

最後に、ここまで支えてきてくれた人と相方に、本当にありがとうございました。

神奈川大会代表 神奈川県立横須賀高等学校二年
小高 聡志

この大会に参加するまで、僕は自分のことをコミュニケーション能力の低い人間だと思っていました。あまり他人との交流は好きではなく、むしろ苦痛でした。

そういうわけで、プレゼン作成という課題を聞いた時も、嫌だなあ、早くクイズらしいクイズがしたいな、としか思いませんでした。正直に言えば、自分は何もしないで、コミュニケーション能力の高い方々が勝手にやってくれたらいいなとさえ考えていました。

ところが、実際取り組み始めてみると、意見がまったくまとまらない。方向性の時点で激しくもめる。一人一人が熱い意見をもっているからこそ、進まない。

その様子は、これまで自分が持っていた話し合いというもののイメージとは大きく違っていました。熱くなっていても、相手の言葉はしっかり聞いている。白熱する議論を目の当たりにして、気付けば自分も意見を口にして、どんどんのめりこんで。

方向性が決まったのは12時頃。もう寝られないと思ったのですが、その後はびっくりするほどハイペースで進みました。自分の考えがとり入れられたものができあがっていくのはとても楽しかったです。

今回のプレゼン、自分を含めた全員の力が結集されたものができたと確信しています。そしてこの体験で、苦手だったものがとても好きになれました。今後、この変化が自分にとって大きな糧になりそうです。

プレゼンを出題してくださった方、その準備を助けてくれた方々、そしてエコノミクス甲子園に関わったすべての人に、ありがとうございました、と今一度言いたいです。

神奈川大会代表 神奈川県立横須賀高等学校一年
中尾 祐介

僕がこのエコノミクス甲子園の予選に出場したの供託クイズ、ボードでの敗戦。他の全国大会参加者との格の違いを存分に見せつけられてしまった。勉強不足だったと思い知らされた。しかしそれより大きなことを他の所で学んだ。

それはプレゼン作成のこと。「環境・グリーンエネルギー立国」についてプレゼンするというミッションのもと、六つのチーム、12人が集まった。そして議論が始まる。

僕は驚愕した。議論の質が全く以て違うのだ。皆が高い知識、リーダーシップを持っていたのもあるが、それだけではなく。各々がどンドンと発言していくではないか。質もさることながら量も凄まじかった。これは僕にとって信じられないような光景であった。僕は今まで、これほど活発な議論が成される場を見たことがなかった。たとえブレインストーミングと言えどもこれほどではなかった。

僕は何もできなかった。

あつと言う間に自分の意見を言葉にできる人たちを見て、「ああんりたい」と強く思うようになっていた。こういう人たちがもっと増えたら日本はまだよくなる、と感じた。

自分がそう思うかと思ってるのは簡単ではないが、なるうと思ひ、近づいていかなければ何にもなれない。少しずつ、少しずつでいいから近づいていきたい。そして来年、全国大会という舞台で今度はもっと発言したい。そして勝ちたい。知識も意見も積極性、プレゼンテーション能力ももっと磨きたい。まだ一年ある。今度は誰にも認められる神奈川代表。その姿を夢見て一歩ずつ進んでいく。

富山大会代表 片山学園高等学校二年
朴木 信

ばくがパートナーの伊勢君と受けたエコノミクス甲子園の感想は、「とにかくおもしろい」ということでした。というのは、様々なサプライズなイベントがあり、なんだか表現は悪いですが、「よくだまされた」大会だったからです。さらに、この大会は、単なる知識量を競う大会ではなく、いかにして日本を〇〇立国にするか、というアイデアを発表するなど、実践も重視する大会であることが大きな特色だと思います。

エコノミクス甲子園の問題の中で最も難しく、最も多岐にわたる能力が必要となるのが、プレゼンテーションです。会ったこともない人たちとグループになり、自分の意見を主張し、相手の意見を正しく理解して応答するコミュニケーション能力が必要です。さらに自分の知識を問題に対応するように組み変える能力や、プレゼンテーションの順序を理論的に構成する能力が要りました。ばくたちのチームは優秀な方々が多く（おそらく他もそうですが）、それだけにまとまりづらかったところもありましたが方向が決定した後は急速に構成されていき、本番に間にあわすことができました。本番での発表を伊勢君が買って出てくれて、いいプレゼンができたと思いましたが、結果は4チーム中の3位でした。

他の問題も様々な視点からの能力を求められ、それぞれ非常に楽しいものですが、プレゼンテーションは他の問題より、特色があり、次回以降も続いてほしい問題でした。

ばくたちは結果を残せず残念でしたが、当初から考えていた「楽しむ」という目標は達成できたと思います。今回は素晴らしい機会を本当にありがとうございました。

富山大会代表 片山学園高等学校二年
伊勢 翔翔

僕は今まで「全国大会」の経験がありませんでした。この大会が僕にとって初めて全国で戦う機会でした。はっきり言って全国という意味を少々舐めていました。北陸の地方大会で優勝して、北陸のレベルと全国のレベルを重ねていたと思います。

エコ甲を通じて、僕は様々な貴重な体験をさせてもらいました。普通なら会う事もできないような政治、経済界の著名人による講演会もその一つです。一つ一つの講演は僕の世の中に対する見方を大きく変えました。エリートを持つ責任、国家とゆう概念に捕らわれない物の見方、大手ファンで活躍する人の考え方。一つ一つが僕の心を揺り動かしました。

また、エコ甲では、個人の能力に捕われない、試験内容が充実していて、人と人のコミュニケーションの取り方やディベートでの意見の出し方、一つ一つが勉強になりました。僕は、エコ甲で初めて、他の人と意見をぶつけ合うという経験をしました。この経験は僕のこれからの人生においてもとても貴重な体験になると思います。





結果としては、予選敗退でしたが、しかし、僕がこの大会を通じて最も大きく感じたのは、「人と人のコミュニケーションの重要性」です。各々すばらしい意見や考え方を持つ方々がこの大会に集まり、協力、対立、時には、意見がまとまらなくなることもありましたが、しかし、全国という大海で自分の見方を変える事ができ、そして、自分の意見をぶつけるという経験は、かけがえのない物で、僕の心の中で光り輝やくすばらしい体験になりました。

ありがとうエコノミクス甲子園。

石川大会代表 金沢大学附属高等学校一年
比嘉 将大

私は今回初めてこの「エコノミクス甲子園」に参加させて頂き、全国大会まで進出できたが、この全国大会では、とても多くのことを学べた。その中でも特に私の心に残っていることを三つ挙げたいと思う。

まず一つ目に、「視野の狭さを痛感したこと」である。私にはこの全国大会に向けての勉強としては、与えられた問題集と経済用語の一問一答しか行わなかった。その結果、ビジネスマナーや時事問題への対策など金融知力の根幹の部分がおろそかになってしまった。また人前で発表するという練習をあまりしていなかったのも、これに含まれるのだろう。「エコ甲なんだからクイズが主だろう」といった思い込みで自らの視野を狭くしてしまったことを痛感した。

二つ目に、「多様な考え方に触れること」。今まで私は石川県という小さい枠の中で争ってきた。勿論それも大事なのだが、それだけでなく自分より高いレベルの人が少なくなり成長ができなくなる。しかしこの全国大会に参加し、各地から集まった強豪と議論することで、私たちの考え方は異なる角度から事象を捉えていたり、より発展的なアイデアが生まれたりと、「協力することで生まれる新たな創造」を体験することができた。これは地方に留まるだけでは決してできないことだったと思う。

最後に、「仲間との絆」。ずっと互いに信じ合いともに戦ってきた相棒はもちろんのこと、徹夜でプレゼンを練り上げたチームメイト、しのぎを削り激戦を戦ったライバルたち、その他数えきれないほどの人との交流を通じて、「エコノミクス甲子園」という大舞台を経験したいわば「戦友」として絆が生まれた。普段自分から人に話しかけない自分でも、先輩・同級生の区別なく沢山のの人に交流しに行き、また相手方も快く受け入れてくれた。ここで得た「絆」は一生の宝モノになると思う。

この感想文に挙げた三つのことは私が体験したほんの一部のことであり、その他にも数え切れないくらい貴重な体験をさせて頂いた。このような素晴らしい機会を設けて下さった皆さん、運営に関わって下さった皆さん、応援して下さいました。ありがとうございました。

石川大会代表 金沢大学附属高等学校一年
岡本 賢

このエコノミクス甲子園を知ったのは、今年の夏だった。私はもともとから経済、政治を得意分野としてはいなかったが、興味本意で参加を決めた。ルールで二人一組での参加が条件であったために相棒選びには悩んだが、一緒に努力して高みを目指せる男に頼んだ。それから私たちが世界を見渡す視野を広げていくことになった。

はじめ、私たちは経済素人で、何をしても自分からず、届いた事前冊子を読むことしかできなかった。でも、その冊子を始めていくと基礎が創りだされていき、次は用語集、問題集、そして日経トレンディなどを読み通して少しずつ前進し

ていった。とにかく覚えることと、事象に対する推測をしていった。毎日放課後残業し、本番当日に挑んだ。

全国から集客した猛者たちが私たちを迎えた。各地方を勝ち抜いた覇者である。

さて、本番を経験してみると、これまた驚くことばかり。プレゼンで日本再生を考へることや講義と見せかけての筆記テスト。油断できないと思つた矢先にまた期待を裏切る。私はこのサプライズを通して、人やイベントを疑う目を養った。いや、そうせざるを得なく自然と身につけさせられたのかもしれない。

本大会はクイズがメインなので、思考力を発起させる形式のものが多く、いわば実戦的で社会で直接通用するものばかりであった。例えば、ポートフォリオや論述クイズなどである。知識をどう運用、活用するかがポイントであった。これらは学校では経験できないもので、興味と熱意をもたらせてくれた。

最終的な結果はどうかと聞かれると思うが、それは4位。本校ベストであり、最終決戦まで舞台上に立てたことを嬉しく思う上、相棒との協力で、より一層互いの絆を深めることができたのではないと思う。

私がこのエコノミクス甲子園に参加して考えたことは、経済と人との関係であろう。経済は知識をもってさえすれば理解できるが、他の誰かがいなければ成り立たない。一人欠けても影響が出るだろう。よく経済を学んでいくと、自分の地位、利益だけに目がいってしまい、他人をけおとすことや単純にもうけることしか考えようとしなくなる。これでは、冷たい経済社会になってしまう。参加者の中にも言っていたが、本来経済は温かみのあるものだとも知らされた。共に協力して経済を成り立たせていくことがいい経済活動なのだとも知った。そう考えると、協力すれば三人寄ると文殊の知恵のごとく、大きな原動力を生み出す。

将来、社会に出るにあたって、仲間との活動を大切にしたいと思つた。今回の機会を通じて、私たちは目に見えない貴重な「何か」を得たと思う。その「何か」をもってこれから生活していきたい。

福井大会代表 福井工業高等専門学校二年
田本 達也

私が、このエコノミクス甲子園の存在を知ったのは中学校3年生の時でした。たまたまニュース番組を見てみると、地区大会の様子が放送されていました。私はクイズが大好きだったので、高校生になったら高校生クイズとエコノミクス甲子園に出る、という目標を持ちました。

昨年は、地区大会の決勝で惜しくも負けてしまい、悔しい思いをしていたので、今年にはリベンジをするという思いでいっぱいでした。そして、地区大会では、危ない場面がいくつかありましたが優勝し、全国大会に進むことになりました。

そして迎えた全国大会、全国大会の前日まで学年末のテストがあり、対策という対策はほとんどできず、ハッキリ言ってベストなコンディションではありませんでした。

しかし、プレゼンのテーマ選択では、得意な工業分野を選ぶことができ、良い仲間にも恵まれました。

1日でプレゼンを作るのは辛かったですが、この仲間がいたおかげで乗り切れたし、自分の納得がいくプレゼンを作れたと思います。

宿舎での、筆記クイズと伝言クイズでは納得できるような結果は出せませんでしたが、六本木に舞台を移してからはビジネスマナークイズで他のチームを逆転し、プレゼンクイズでは1位は逃しましたが、リードを保つことができました。次の供託クイズでは、「スタンダードオイル」を思い出せず悔しい誤答をしたものの、最後は相方に助けられ、何とか抜けることができました。

そして一番楽しみにしていた早押しでは、「3R」

という言葉に反応してしまい、危ない場面もありましたが、何とか準決勝にコマを進めることができました。準決勝で負けてしまいましたが、ベスト6という私にとっては十分すぎる結果を残すことができました。

最後に、この素晴らしい大会を開いていただいた金融知力普及協会並びに全国の地方銀行の皆さんにお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

そして、最後に一言だけ言わせていただきます。
「I love Economics!」

福井大会代表 福井工業高等専門学校二年
玉木 義孝

さて、今回私は福井大会を勝ち抜いてきた代表チームの片割れ、という事で参加させていただきました。相手の田本君とともに到着した羽田空港では、既に何チームかが待機していました。田舎者には慣れない人混みの中、顔の広い相方はどうか分かりませんが、少なくとも私の知る顔というのはもちろんありませんでした。何とも、完全なる赤の他人として、人混みの中の人々と何もかわらない。そんな感覚と不安感に駆けられていたのを覚えています。

そして、青山での大会説明。なんと決勝ラウンドまでは、チーム戦で行うというのです。私は困惑しました。会場にいる知り合いは、他でもない相手の田本君だけ、一人だけという私には、とてもこのチーム戦を戦うことが厚く、高い壁に感じられました。

テーマ、共闘するチームも決まり、早速話し合いが始まりました。私が書類を眺めて考えあぐねていた時、他校チームの方が、おもむろに自己紹介を始めたのです。私はそちらを向いて平然と聞いているふりをしながら、内心とても感心、そして少しびっくりしていました。私も自己紹介を済ませると、自然と気も軽くなりました。それぞれが意見すると、それに全員が真剣に耳を傾け、検討していく、ついさっきまで話したこともなかった人達と協力してこれた事は、自分のことながら驚きでした。プレゼン作成が日付をまたいでも、みんな眠い目をこすりながら頑張ってくれて、完成まで全員が付き合ってくれて素晴らしいものが出来上がりました。これだけのことができたのは、互いの不安をなくすよう支えあってこれた結果だと思えます。

大会の結果以上に、他では手に入らない経験を得ることが出来たと思います。主催者、一緒に戦った仲間、全員に、ありがとう。

岐阜大会代表 岐阜県立岐阜高等学校二年
深見 研太

僕たちは今回、全国大会で「準優勝」という結果を得ることができました。予想以上の成果であることをうれしく思うとともに、これまで多くの方々にお世話になったこと、そして「幸運」に恵まれたことに感謝しています。

昨年夏の地区大会決勝で、僅差で準優勝チームに勝ち、全国大会出場が決まったとき、先輩がなし得なかったことをなし遂げたということでも喜びました。それと同時に分厚い学習教材を受け取り、岐阜大会代表としてもっと頑張らなければならないと思えました。全国大会が近づくとつれなまり対策がとれていなかった僕たちは、せめて半分以上の順位になりたいと思いつつも、他の有名校を相手にどのくらい進めるのかとても不安でした。

そして全国大会の三日間が始まりました。まず到着してすぐに、いきなり初めて会った人達とグループをつくり、プレゼンを翌日までの短時間で仕上げるという課題を与えられ、本当に驚いてしまいました。しかし他のチームの人が自ら指揮



全国大会感想 Final tournament report



をとってくれて、それ以外の人たちが自分の担当の仕事を担当するという形ができあがりました。一夜が明けた大会本番の日、今度はそれまでグループと一緒に頑張っていたチームが敵同士になりました。これにも驚きましたが、待つ時間もなく次のラウンドに進みました。それから今まで頑張ってきたから、どこで失格になっても良いと思いつつ、自分が得意な問題は自分で、チームメイトが得意な問題はチームメイトに任せ、チームワークを発揮して次々と進みました。その調子の良さは自分たちでも信じられないほどでした。

そして決勝まで進みました。決勝には名門校が揃っていましたが、その中で最後まで一生懸命頑張ろうと心に決めました。最終問題、金沢大学付属チームが選択肢の「世界平和」を大きな声で選び、その声とともに優勝校が灘高校に決まりました。僕たちは準優勝でした。思ってもみなかった良い結果を実感するのに、やはり時間がかかりましたが、今はエコノミクス甲子園に参加して良かったと感じています。

岐阜大会代表 岐阜県立岐阜高等学校
澤田 拓也

岐阜高校クイズ研究部はこれまでエコノミクス甲子園に参加するも、東海大会の壁を越えることができていません。

しかし、今回初めて岐阜大会が開催されることになり、もしかしら全国に行けるのではないかと希望が生まれました。そして、岐阜大会ではサドンデスにもつれ込む接戦の末、辛くも優勝することができました。この時点で、僕らの目標としていた岐阜大会優勝は達成されてしまったのです。しかし、目標の達成と同時に、岐阜代表として全国大会に出場するという新しいミッションも生まれました。とにかく、いけるところまで行こうという気構えでした。

そして迎えた全国大会。実際のところ準備万端とは言い難い状態でした。そんな中、一緒にプレゼンテーションを作った仲間たちの事は忘れられません。さすがは全国へ勝ち上がったチーム同士、すぐにグループのまとまりが出てきました。その中でも、いち早くリーダーとしてグループをまとめた早稲田本庄チームの統率力はすごいと思いました。

その後も数々の騙し、もといサプライズ演出に驚かされつつ、二日目の本戦を迎えました。やはり、最初のマナー問題は戸惑いました。普通科の高校生がビジネスマナーに触れる機会はあまりないですが、これから先知っておくべき知識だと思えます。徹夜したプレゼンも、横から見ていかなかなかよく決まっていたと思います。この時まではグループのメンバーと決勝まで共に戦っていくと思込まれていました。まさか途中で争うことになっていようとは、スタッフの策略にまんまと乗せられた感じでした。それから、相手の深見君の活躍によって、準決勝に勝ち上がることができました。準決勝の論述では奇しくも宿舎で同室の福井高専チームと争うことになりました。僕は、前のラウンドで全く良いところが無かったので、かなり必死でした。論述の発表順も一番目で、考えをまとめる時間も少なかりました。本来三つの例を示してまとめるつもりが、いざ話してみると一つ目の途中で残り十六秒。岐阜大会主催が十六銀行だったのは関係ないのですが、それまで全く時間を気にしていなかったのびっくりしました。そこから急遽プランを変更して何とかまとめて終わらせました。もう何を言ったのかあまり覚えていません。結果は勝ち上がることができましたが、危ないところだったと思います。決勝戦は灘の強さを見せつけられました。やはり自分たちはまだまだ痛感させられました。他チームのゲーム選択のおかげで二位に浮上し、そのまま決着がつかないまま三日間の日程はハードでしたが、その分とても充実していたと思います。

このエコノミクス甲子園を通して、経済について知らなかったいろいろなことを学ぶことができました。日本全国から集まった全国大会進出チームのみなとも出会うことができました。この大会で僕は本当に貴重な体験をたくさんさせてもらえたと思います。来年は後輩を送り込むつもりですが、ぜひ勝ち上がってこの貴重な体験を楽しんでほしいと思っています。

東海大会代表 名古屋大学教育学部附属高等学校三年
坂野 慶太

エコ甲は、私の人生を大きく変えてくれました。ほんの軽い気持ちで参加した3回大会では、全国の精鋭たちと同じ舞台を共有させていただきました。そこで自分の圧倒的知識不足を実感したのはもちろんのこと、魅力あふれる先輩方から多くのことを学びました。

大会が終わってみれば、その先輩に憧れ、自分自身の目標となり、日々を過ごす原動力になったのです。エコ甲前までは、特に目標もなく日々を惰性で生きてきた私の人生・高校生活は大きく変わりました。

憧れの先輩に近づきたいがため、日々努力をしてきました。幸いにも、4回・5回大会の出場機会にも恵まれました。高校生活を過ごしてきた中で、「憧れの先輩」に一步步着実に歩みを進めてきました。

もう私には出場資格がありません。最後の全国大会を終え、過去を振り返ってみれば、あの日見た先輩とは遠くかけ離れた自分がいました。しかし、断言できることがあります。それは、「エコ甲は自分を飛躍的に成長させてくれる」ということです。クイズだけでなく、プレゼンや論述など、様々な場面で求められる力は違います。学校で学ぶ知識や論理ではない、「生きた課題」がそこには存在します。その課題に挑戦するだけでも問題意識は格段に向上し、自分自身の成長へ大きく寄与します。つまり、全国大会へ出場すること自体に大きく価値があります。

私自身はエコ甲で大きく育つことができました。これも主催者の方、共催機関や応援して下さる皆様がいるからこそです。末筆ながら皆様に心からの感謝を申し上げ、感想文に代えさせていただきます。本当にありがとうございました。是非エコ甲に参加して新しい自分を見つけてください！

東海大会代表 名古屋大学教育学部附属高等学校二年
堀場 美咲

まず始めに、大会二日間を終えたいま、私が強く希望するのは「エコノミクス甲子園」との絆を今以上に深めたいという事です。プレゼンテーション準備で徹夜した一日目に引き続いて、二日目の昨夜も優秀な同世代の仲間たちの感性を吸収して身に付けたいと考えたので夜更かしをしてしまいました。普段なら十時間睡眠を確保したい私ですが、この大会をきっかけに人生計画の視野を広げるためにも、努力してOBボランティアの方々のようになりたいと考え始めるようになりました。エコノミクス甲子園でのクイズやイベントには手作り感があって親しみやすさがある一方、参加者側の心理を揺さぶってくる頭脳的な仕掛けがよく考えられていて、この大会が大好きになりました。そして何よりこの大会を作り上げたスタッフの方々の熱意に心を打たれ、私の金融・経済に対する知識の少なさに何度も失望しました。しかしながら、本大会では得る事の方がより多かったのが少なからず満足しています。来年度には自分のできる精一杯の努力をして、またここに帰ってきます。ぜひボランティアスタッフをして未来の金融知力に力を添えられたらと思っています。ここまで私の世界観を変えてくれたのはスタッフの皆さんのおかげです。本当に感謝しています。あり

がとうございました。

プレゼンテーション準備の会議では刺激的な話し合いができました。単純ですが、自分が幸せになるために、将来役人となる事がひとつの手段かもしれないと気付いた事も、私の糧となったのではないかなと思います。しかしながら、スマートになる事だけにとらわれず、実現性も含んでいる論述を作る事が目標となりました。つまり私はフレキシブルな発想者になりたいのです。

以上、私の理想ばかりあげてしまいましたが、スタッフの皆さん方、恵まれた環境をありがとうございました。

関西大会代表 灘高等学校二年
沼 大地

元々私は歴史が好きで、経済とか金融にはそれほど関心はなかったのですが、見聞を広げるという意味では今回のエコ甲はこれまでで最高の経験になったと思います。本戦に至るまでに、教材の内容を理解し、頭の中に残すために日夜努力したこと、プレゼンのために一晩中仲間たちと、どうすれば日本が輝くかを真剣に語り合ったこと、そうして一夜を通して作ったプレゼンが、見る人の心へと届くのを目の当たりにしたこと。実際にクイズを解いたことよりも、これらのことの方が私の血肉となり、私を変えることにつながったと思います。こういった体験を通して私は経済の本質を知り、私たちの力で日本は変わるんじゃないか、という自信を得ることができました。金融知力というのは「金融に関する知識とそれを活用する力」という風に位置付けられていますが、金融知力は自分だけでなく世の中の役に立てるために必要なもので、まず自分の自信だと思っています。そして今回私が得た何よりも得難く、何よりも貴重なものは、様々なことについて語り合える仲間です。短い時間ではありましたが、彼らと共に支え合い、共に知力を尽くして何かを作り出すということを通して、私はある種の積極性と先に述べた自信を得ることができました。今回の大会に参加できたこと、そして最高の仲間から感謝しています。ありがとうございました。

関西大会代表 灘高等学校二年
外山 望

何よりもまず始めに言いたいことはここに至るまで支えてくれた家族や学校の友だち、一緒にプレゼンを作ったりして戦った仲間たち、そして優勝時に温かい拍手をいただき祝ってくれた人たちに。感謝の気持ちを心から述べたいということです。どうもありがとうございました。

私はエコノミクス甲子園に出る前、実は経済のことを単なる数字であってそこには何の人間性も見出せない、と思っていました。

しかし、この大会に参加して日本のことなどを真剣に考えて議論し、仲間たちとのプレゼンを作ったりする中で、経済というのは実は私たちの生活に密接に関わっていて、温かみを持つものであり、私たちがあってそして私たちを基として成り立つものなのだという事に気付かせて頂きました。

そのことに気付いて私は経済というものを心から好きになれました。私は経済を学ぶ本当の意味を深く知ることができました。今後ずっと勉強を続けていきたいと思います。

私がエコノミクス甲子園に初めて出会ったのは昨年でした。中学時代の政経の先生からの紹介と経済を昔から本格的に勉強してきた友だちからの誘いがきっかけで私は昨年もこの大会に出場させて頂きました。その時は筆記こそ一位を獲得できたものの準決勝で敗れてしまいました。それは知識こそ多く詰め込んだものの結果として物事を深く自分の頭で考えることをあまりせず、そして何よりも周囲への思いやりや敬意、感謝というもの





全国大会感想

Final tournament report



に欠けた偏狭な自分に原因があったものだと思います。プレゼンを作る時にも用語や知識のそこまですぐ詰まれない意見でも人が深く頭で考えた意見というものを全て大事に扱おうと今年は頑張ることができました。この大会を通じて色々な面で本当に人間的に成長することができたと思います。そしてここを起点に今回得ることができた成長の芽というものをどんどん芽吹かせていきたいです。

最後になりましたが、このような大会を開催して下さった金融知力普及協会や地銀の人たち、学生スタッフなどで働かれた人たちに心からの感謝を述べさせて頂き筆を置かせて頂きます。どうも有難うございました。

奈良大会代表 奈良学園高等学校二年
松山 宏彰

今回、この大会に参加して感じたことは数多くありました。その中でも僕が一番感じた事は、人とのつながりでした。何故かという、まず、僕がこの大会に誘ってくれたパートナーがいなくて参加すらしていなかったと思うからです。そして、応援してくれた学年の友人達や先生、さらに、僕はサッカー部なので練習を休んで行くことを認めて下さった顧問の先生。あまり面識があるわけでもないのに東京まで一緒に来てくれて、熱心に応援して下さいた南都銀行の西元さん。わざわざ東京まで見に来てくれた親、しかし、一番は東京に来てたまたま出会ったスタッフや全国大会に出場してきた人たちとの出会いです。初日にたまたま同じグループになって、始めは少しぎこちなかったりもしましたが、夜遅くまで一緒にプレゼンを考えて、翌日に発表した時のあの喜びは自分にとってすごいものでした。ただ、そんなチームをいきなり割って、チーム同士で戦わせるとは厳しいことをすると思いましたが…。スタッフの皆さんも、たまたま全国大会に出てきて出会っただけなのに、競技が終わった夜もすぐいろいろ話を話して下さって本当に嬉しかったです。自分はこの大会で金融知力も確かに身につけることができたと思います。しかしそれよりも全国、津々浦々、いろんな人との出会いから学んだことが非常に大きいと思います。たった三日でしたが、いつも通り暮らす普通の日々とは全く違う三日でした。けれども、この三日が終われば、せつなく出会い、仲良くなった人でももう会えない人もいます。だからこそ、僕は一人一人との出会いをもっと大切に、人生は一期一会なのだと強く感じました。この大会に参加して本当によかったです。そして、このような場を作って下さったみなさん、本当にありがとうございました。

奈良大会代表 奈良学園高等学校二年
中井 啓貴

この三日を振り返ってみて、まずは「疲れた」の一言が初めに浮んでくる。プレゼンを作るのにほぼ徹夜をしたり、大会の後にはみんなが夜遅くまで大喜利をしたり、大学生活の話の聞いたりもした。二日前、京都駅で新幹線に乗り込んだものの、同じ列車に乗っていた岡山白陵や灘、名大附属、岐阜といったチームとは一切、言葉を交さずに東京に到着した。しかし、今では敵というより、同じ土俵で闘った仲間であるという意識が強くなっている。

次に、事前にインターネットでリサーチ済みではあったものの、本当に人間不信になってしまいそうになった。クイズなのだから、当然ではあるけれども、共にプレゼンを一生懸命に作り、仲間良くなったところで、いきなりライバル同士に戻ってしまう。主催者側の思惑にきれいにはまってしまう。しかし負けってしまったから終わりではなく、心から自分達のグループから出たチームを応援でき、仲間深まっていったと改めて思った。

最後に、この大会の参加者がみんな、心から楽しみたいと思っていると感ずることができた。単に楽しむだけなら、初参加のチームはおいでにけりになっていたと思う。みんなでエコノミクス甲子園を楽しみたい、楽しい大会をつくっていきたいという気持ちで参加している人がとても多いということを感じてきて良かったと思う。

私たちの学校にはクイズ系の部活はなく、全て自分達でやらなければならない。周りの関心も低く応援も少ない。でも、来年も出場したい。決勝まで行きたいという気持ちが強くなっている。来年は3年なので、本当に参加できるかどうかはわからない。こんな気持ちにさせてくれたのは、まざれもなく、ここで得た仲間だと自信を持って言える。来年、絶対に戻ってきます。

中国大会代表 岡山白陵高等学校一年
大橋 萌

全国大会に来る前、全国大会がどのような大会なのか楽しみでした。実際に来てみて、想像以上にハードかつおもしろい大会でした。

まず、ハードだと思ったのは、約十八時間でプレゼンを作成せよ、という課題です。準備時間は少なく、使える情報収集の手段は限られています。しかも、グループのほとんどは初対面。もちろんこのような障害を乗り越えて作り上げたからこそプレゼンに印象に残るのですが。

おもしろいと思ったのは、普通なら関わりのないだろう高校の人たちと交流できたことが一つです。様々な方がいて、話をするだけでもおもしろかったです。女子が少なかったのは少し残念でしたが。

もう一つは、第一、第二ラウンドのいたずらっぽい始め方です。どちらも見事にだまされてしまいました。人間不信に陥るほどではありませんでしたが、これからの大会でもどんどん新しくユニークな始め方を編み出してほしいです。とても刺激的でいいと思います。

クイズの内容については、自分が勉強不足だと痛感させられました。そして、経済はいろいろな分野に、多岐にわたっているものだと感じました。時事問題も多く、これからは新聞を読もうと思いました。難問ばかりで、問題を作るのも大変だろうなと思います。

最後になりましたが、この大会を開催された金融知力普及協会の方やスタッフの方々、中国銀行の皆様、この大会に携わった方々に心より感謝申し上げます。これからも皆様のおかげで、普段では得がたい経験ができました。ありがとうございました。

中国大会代表 岡山白陵高等学校一年
申 知仁

全国大会進出が決まったときは、まさかこんなにも疲れる大会であるとは思わなかった。朝の五時まで延々とプレゼンテーションの台本を書いていると、段々とともに歩くのが難しくなった。精神的に妙に興奮していたので、不思議と眠くはなかった。

これは次の日の大会のときに眠くなるなど思ったが、午後五時の大会終了まで、立ちくらみをするころはあったが睡魔が襲ってくることはなかった。特に自分の成績と関係ない時でも、常に極度に精神がはりつめていた。地方大会のとき、二位のチームとほとんど点数差がなかったのに、ひどい成績などとなってしまおうとうけあがられるかわからないと思った。

どうにか準々決勝の早押しにまで勝ち上がったときには安心した。これで岡山に帰ったときに言い訳が立つなと思った。同時に、ここまできたらさりげなく上位に進出して賞品をもらってしまうという野望が脳裏をかすめた。

全国の壁は厚かったので破ることは出来なかつ

た。準決勝出場チームとの準備量の差を考えると当たり前の話であると思った。しかし充実感があった。

それは仮想敵国のラサールにはひげ目をとらなかつたというもある。しかし、全国レベルには及ばないものの日頃の勉強がここまで実を結んだという手ごたえがより大きいように感じた。

その晩も眠くはなかつたので日付が変わるまでは少なくとも起きていた。だから今非常に眠い。

三日間奇妙な興奮と非現実実に包まれていた。来年は出られないかもしれないが、後輩を育成して送りこもうか、などということは今考えている。

香川大会代表 香川県立高松高等学校一年
松本 渉

まず、最初に一。エコノミクス甲子園はとにかく、楽しいんです、面白いんです、白熱するんです。とりあえず参加してみたい、絶対に損はしません。人生を見る目が百八十度変わります。

香川大会で優勝した僕ら、ルパン。チーム名の通り、鮮やかに全国大会でも勝利をかっさらっていく、はずでした。少なくとも、三日前の僕達はそう信じて疑いませんでした。が、いざ会場に到達すると、周りのレベルが高すぎる。香川大会と全国大会のレベルの違いをその肌で感じ、僕たちの自信は雪崩のように、流れ去り、そして解けました。

環境・エネルギー立国というテーマでプレゼンすることになった僕たち。話し合いを重ねるにつれ、方向性が見えてきたと感じていました。しかし、その方向性は講演をして下さった識者の方々の適確な意見により、突如打ち崩されました。絶対に優勝する、その気持ちはどこも同じ。必ず一番になってやる、という僕ら赤チームは全員が納得するまでとことん話し合いました。結局、プレゼンが完成したのは朝の五時。でも、確かな手応えを感じていました。

プレゼンの成績は四チーム中三位、決して納得できるものではありません。他のチームのレベルの高さを思い知らされました。

準々決勝進出を決めるクイズは、まさかのチーム内対決。赤チームはプレゼンの成績により六チーム中三チーム準々決勝へ駒を進めることができました。そして、その結果は。僕らは四位、三位の岡山白陵とたった二点差でした。

勝ちきれなかった、という気持ちが強く残っています。来年は必ずこの場に戻ってきて優勝してみせます、いや優勝する。

最後になりましたが、赤チームのみなさん、百十四銀行の藤岡さん、そしてエコノミクス甲子園をサポートして下さった、全てのの方々、本当にありがとうございました。そして、灘高校のみなさん、おめでとうございます。すべての方々に、感謝をこめて。

香川大会代表 香川県立高松高等学校一年
松岡 明宏

今回、僕は初めてエコノミクス甲子園全国大会に参加することができました。大会を通じて、普段の生活では滅多に体験できないことまで体験することができました。中でも特に印象深いことは二つあります。

一つ目はチームで行うプレゼンテーションクイズです。普通なら長期休暇中の課題になりそうなレベルのものを、二十四時間以内で完成させることは大変でした。どんなことでもそうですが、人それぞれ日本の将来のビジョンは違います。誰もが己の理想とする経済のことを考え、話し合いの中で全く異なる意見も生まれました。しかし、全員の意見を余すことなく出し合って、一人では思いもつかないような素晴らしいプレゼンを作成できたことに、グループのみんなや、講演して下さい



全国大会感想 Final tournament report



た講師の方々、またエコ甲スタッフの方々への感謝と、誇らしさを感じることができました。

二つ目に、エコ甲を通じて感じた、経済の「あたたかさ」です。全国大会の前まで僕は経済とは極めてドライで、冷たいものだと思っていました。銀行の企業における貸しはがし、貸し渋り、企業のインサイダー取引を筆頭に、他人の事を考えず、自分の欲を満たしている悪いものと思っていました。

しかしそうではありませんでした。大星さん、野中さんによる、「お金は『道具』、目的ではない。」というお言葉や、エコ甲を通じて感じた、同じ高校生の「日本を良くしたい!」という思いに触れて、その考えは一瞬で変わりました。

なぜ経済があるのかというところ、人を幸せにするためです。それを肝に命じて、より一層経済を勉強していきたいと思えます。それとともに、勉強したことを生兵法にすることなく、「人を幸せにする」という思いに基づく行動を、実生活でもできる限り多くしていきたいと思えました。

徳島大会代表 徳島県立城東高等学校一年 乾 雄貴

僕はこのエコノミクス甲子園を通じて、たくさんものを得ることができました。予選では、なかなか時間が取れない中頑張ってチーム二人で集まって勉強し、見事徳島大会優勝という成績を残すことができました。徳島大会は今年第一回目ということで、その初代チャンピオンになれたということでもう既に感無量なのですが、やはり地区大会優勝という結果に満足してはいけなないと思ひ、全国大会も勝ち進んでやるぞという気持ちで今回全国大会に臨みました。しかし、やはり全国の壁は厚く、一回戦敗退という残念な結果に終わってしまいました。わずかに一点及ばず、次に進めず終わってしまったのは非常に残念で、徳島県で応援してくれている人達に対してとても申し訳ない気持ちになったのですが、不思議とそこまで悔しい気持ちにはならなかったように思えます。それはなぜだったのでしょうか。それは、前日・当日に築き上げた同じチームメイトとの絆によるものではないでしょうか。最初に全国大会のルール説明を聞き、六つのチームが一つになって団体戦を行うと聞いたときは、知らない人といっしょに何かをするということに少々不安を感じました。しかし、みんなと共にプレゼンテーションの準備をしているうちに、互いへの信頼関係が生まれてきました。仕切ってくれる人、資料を集めてくれる人、パワーポイントでその資料をまとめてくれる人。いろいろな仕事をみんなで分担して作業するというところにこそ感動を覚えたのは初めてでした。一回戦の相手はその同じチーム内で勝ち抜けを争うという内容でした。僕らのチームはみんなで協力した結果、全体順位が一位だったので、六チームのうち四つのチームが二回戦に進めることになっていました。故にせつかくのその枠に入らなかったのは残念ですが、負けたときは勝ちあがったチームメイトにがんばってほしいという思いの方が大きかったように思えます。この大会を通じて、金融の知識だけでなく、協力の大切さも知ることができました。

徳島大会 徳島県立城東高等学校一年 西岡 大輝

私たち「チーム西北西」は、今年初めて、この全国大会に参加しました。徳島県勢として初めての参加となります。

そもそも、なぜこのエコノミクス甲子園に出たのかと言うと、実際のところ、「名誉が欲しいから」というのが最も大きいと思います。この「名誉」は、個人的な「名誉」だけではなく、ある野望達成のための「名誉」も含んでいます。具体的に言うと、「学

校にクイズ研究会を作りたい」という要望を追求しているのです。私の通っている高校には「クイズ研究会」というものはありません。(ただし、友人十名ほどで集まった「プライベートクイズ研」という非公式な団体なら存在します。無論、私も所属しています。)学校側が、「実績のない団体の結成を公的活動として認めることはできない」という立場を取っているからです。

そのような学校方針でクイズ研ができないと、いろいろと支障が出てしまいます。一番大きなものとして、実力の差があります。実際に学校から認められた団体から出場する人と、組織づくりができていないために、無秩序と言っても過言ではないほどテキトーな練習プログラムで、団体としての相乗効果のみられない団体とでは、その実力に大きな差が生じてしまうのです。だからこそ私は、このエコノミクス甲子園で優勝し、学校側に実績を見せつけたかったのです。

しかし、結果は、「一回戦敗退」。優勝とは程遠い、恥じるべき結果だと思えます。それ故、今回のエコノミクスの感想は、「残念、無念、反省、恥辱…(「…」には深い意味があります。)」といったところです。

しかし、ここで発想の転換。真のエコノミストは、こんなネガティブではいけません。真のエコノミストは、ネガティブをポジティブに変える能力を持つ必要があると思います。だからこそ、「…」の部分で、「希望、未来、達成、幸福、(勿論)努力…」といったポジティブワードに変更していきます。

換言すると、今回のエコ甲で、ネガティブをポジティブに変える創造力(一種の想像力と等しい)が身に付きました。

本当に良い経験をさせていただきました。たいへんありがとうございます!

愛媛大会代表 愛媛県立松山東高等学校一年 宮本 優生

人生には目的がある、と私は思う。しかし、その目的を知るためには、多くの経験が必要だ。その経験には悩み、苦しみ、努力、協力などなど、書ききれないほど多くのものがある。

今回のこのエコノミクス甲子園では、大会中のほとんどの活動に、そのような要素が含まれていた。一つ目のプレゼンでは、多くの意見が飛びかいて、何を主張すべきか悩み、発表構成に苦しんだ。それなのにグループのみんなはいつまでも九時に寝る私の方を、心配してくれた。昨日まで、全く知らなかった人が支えてくれた。空は暗くて雪の舞う、こごえるような日だったが、私は暖かい気持ちになった。

その後、僕はみんなの好意に甘え「寝る」ことになった。

次の日、朝起きてみるとチームメイトがいるはずの自分の部屋には誰もおらず、一瞬何が起きているのかわからなかった。急いで、二一五の部屋に行くところには、一つのベッドにつき二人が寝ていて、起きている人はプレゼンの準備をしていた。まだ終わっていなかったのか、私は驚き、自分を恥じた。そして、自分も何かしなければならぬと感じた。そして、それまでの状況を聞き、プレゼンの手直しに微力ながら参加させてもらった。

提出の五分前に完成したプレゼンを眺めていると、ここに来ることができて本当に良かったと思ふから思った。

結果が一番下の順位だったが、つくり上げることが出来た。そこに意味があると思う。

さらに、私は政治家になるという夢がある。それが今の私の生きる目的だ。しかし、そのためにはもっと努力しなければならぬ。日本にはこんなに多くの志を持った高校生がいる。ぼーっとしているとすぐにおいつかれてしまう。自分の高校に戻ってもこの気持ちをもって生活していきたい。

最後に、このエコノミクス甲子園に関わる全てに感謝して結びとしたいと思う。

愛媛大会代表 愛媛県立松山東高等学校二年 増田 直道

午前六時。気がつくとき真冬の夜が白んでいた。人生初の徹夜である。これまでの人生において徹夜せざるをえない状況に追いこまれたことは無く、今回のプレゼンもせいぜい二時頃にはカタがつくと高をくくっていた。見事にその淡い期待は打ち砕かれたわけだが、徹夜してまで何かを仕上げた経験は私にとって大きなプラスとなった。そして、その他の点においてもエコ甲は私を人間的に一回り、二回り成長させる重要なものとなった。

初日羽田空港で各チームの自己紹介カードが渡された時、私は舌を巻くしかなかった。いずれの学校も全国に名立たる進学校であった。無論、クイズ研究会に所属する方も多かった。こうした、ある意味化物揃いの中で闘っていく事を考えると、私は気が重くなり、急に母校の看板がかすみ始めるように感じた。

その後青山に移動してからも、私の目の前を飛び交うのは、これまで想像もつかなかった迫熱した議論や理路整然とした自己主張の数々であった。私はそれを見てただただ息を飲むばかり。完全に、国を背負って立つ全国の高校生たちに圧倒されていたのだ。

以上のように、私はエコ甲を通して彼らのレベル、志の高さを知り、己の甘さや、いかに自分が周囲の小さな世界に囚われていたかを思い知らされたのだ。しかし、このことがマイナスだったとは到底思えない。もしエコ甲が無ければ、私は高校を卒業するまで、自分の力を過信したままだったかも知れない。「今」、それが分かったことが大切なのだ。いよいよ受験が迫ってくる、この高2の冬に、だ。私は、こうした事実を分らせてくれたエコ甲に大きな敬意を払うと共に、この経験を生かすことに努力したい。私が圧倒された高校生の皆さんを追い抜くその日まで。

九州大会代表 佐賀県立致遠館高等学校二年 武藤 大貴

今回、私がエコノミクス甲子園に参加した理由は、言うまでもなく、昨年のリベンジを果たすためでした。というのも、私は昨年の第四回大会でも全国大会に進出して、その時の早押しラウンドで、自分の実力不足のために惨敗を喫してしまい、予選ラウンドを四位通過しておきながら、準々決勝敗退という不本意な結果に終わってしまっていたのです。全国のいわゆるクイズ連中と対等に渡り合せて雪辱を果たすべく、この一年間は主に「早押し」に重きをおいて対策を行って来ました。しかし、このことがそもそもの誤りだったのです。エコノミクス甲子園は単なるクイズ選手権ではありません。クイズはあくまでも形式に過ぎず、幅広いファイナンス・リテラシー、経済というモノに対する理解度を競う大会に他ならないということを、今回の、「早押しボタンにつくことすらできずに敗退」という結果を受けて、痛感しました。確かに「早押し」に関しては昨年とは比べものにならないほど実力がつきました。というのも、たればの話で失礼かと思いますが、押しを見る限りでは昨年よりも随分平和な印象を受けたので、もし早押しラウンドに進出できていたら、仮に通過問題を永遠に正解できなかつたとしても、正解数の多さで準決勝に進出できただろうという自信はありました。しかし、供託クイズという、純粋な知識量を競うラウンドで負けてしまった以上、私の努力のベクトルの向きは間違っていたのだと思います。一言で言えば「勉強不足」でした。

来年も出場して、来年こそはリベンジを果たしたいという気持ちは勿論ありますが、何せよ受験というイベントがある以上、私の無念は晴らせな





全国大会感想

Final tournament seemed report



いまです。「養老保険」という単語を時間内に捻り出せていたら、そもそもペーパーで勝負に出るようなマネをしていなければ、最初から形式の嘘を見抜けていれば等、心残りは尽きませんが、エコノミクス甲子園全国大会という素晴らしい舞台二回も立てたことは、今後の人生において必ずやプラスになっていくと思います。

最後になりましたが、エコノミクス甲子園という素晴らしい舞台を用意して下さった、金融知力普及協会の皆様、協賛の各地方銀行の皆様、運営に携わっていただいた学生スタッフの皆様、そして、忙しい中で対策に協力していただいた皆様には期待に応え切れず申し訳ない気持ちもありますが、お礼を申し上げます。ありがとうございました。

九州大会代表 佐賀県立致遠館高等学校二年
峯 慎吾

エコノミクス甲子園全国大会に参加して、僕は地方大会とは比べものにならないぐらいの金融知力はもちろんのこと、マナーなど様々なことを学び吸収することができたと思う。

全国大会ともあって、やはり全国的に有名な高校も多数集って、この集団の中で戦っていくんだという高揚感と同時に、相方の足を引っ張ってしまうのではないかと不安が自分の中に生じた。

講演会では、三人に講演をしてもらい、どれもこれからの自分にとって役に立つような講演ばかりでとてもタメになった。現在の日本経済や経営について、めったに聞けない講演ばかりで、この講演で得た知識を糧にして、将来に活かしていきたいと思った。

プレゼンでは初対面の6チームでプレゼンを考えていくということで、うまくやっていけるのだろうかとか不安思ったが、皆も上手に打ち解け、自分も打ち解けることが出来て終わる頃には大切な絆ができたような気がした。

夜もほとんど寝ずに、一緒にプレゼンを考えたという経験は何事にも変えられないと思う。

クイズ本番では、前日のペーパーやらプレゼンやらボードクイズで結局は突破できなかったので相当悔しかった。タイムアップと同時に答えを思い出した問題もあり、それを時間内に書いていけば突破できていたのに、こういう結果になってしまい本当に相方には申し訳ないと思った。優勝した灘高校は決勝も圧倒的だったし凄かった。

クイズの結果としてはとても悔しいが、今回のエコノミクス甲子園を通して、クイズよりもずっと自分の糧になるような、この歳ではできないような経験をすることが出来て本当に感謝しても足りない程だった。来年の参加は無理そうだけでも再来年はスタッフとしては是非ともまたエコノミクス甲子園に関わっていきたいと思った。

長崎大会代表 長崎県立長崎北高等学校一年
後藤 優弥

私は、クイズ大会というものどころかそもそも経済のことについてなど、全く興味がありませんでした。この大会に出場したのも、友達から誘われたからというのが一番の理由でした。

しかし、長崎大会に出場してからは考え方が変わりました。学校のテストとは違う問題が解けたときのうれしさ、解けなかったときの悔しさを知ることができました。そして長崎大会では勝利しました。その勝利したときのうれしさ、喜びというもの、今までに感じたことのないものでした。私は、クイズに興味があったので、何か問題を解くということは学校の授業やテストの時のみで、正直に言うところあまり楽しくはありませんでした。それでも、この大会に出場してからは、考える

ことが楽しくなってきました。

そして、全国大会に出場したのですが、考えが甘かったです。全国大会は、地方大会が少し難しくなったぐらいだろうと思いきや、あまり対策をしてきませんでした。

しかし、全国にはとても高いレベルの高校生が出演して、全国の高い壁を身をもって知りました。対策をしていかなかったせいで、クイズの解き方、ルール、そもそも経済の基本的な知識に欠けていました。そのせいで私のパートナーに非常に悔しい思いをさせてしまい、私にとってもとても残念な結果となってしまいました。

私と私のパートナーは部活が忙しく、これからこの大会に出場できるかは分かりませんが、何か機会があったり、もう一度パートナーに誘われるようなことがあったりしたら、今度こそは事前の対策にこれまで以上力を入れ、この悔しさを忘れずリベンジしたいと思っています。しかし、今回のパートナー以外の人と出場する気はありません。

長崎大会代表 長崎県立長崎北高等学校一年
中俣 浪漫

私は今回初めてエコノミクス甲子園の全国大会に出場し、多くのことに圧倒された。そのほとんどが、同世代の高校生たちの、高校生離れした能力の高さによるものだった。

まず初日、全国から集った二十四チームが初めて顔を合わせた。それにも関わらず、グループに分かれて会議が始まった途端に、初対面だということを感じさせないほど、互いに遠慮なく意見を出し、議論を進めていった。私にとって、それは体験したことのない光景だった。初めて会った人たちというのは、他人が発言するのを待ち、決して自ら行動を起こすことはしないのが当然のことのように考えていた。しかし今回の経験から、全国で名門と呼ばれるレベルの高校生たち、真の意味で頭の良い人間は、ただペーパーテストで高得点を取ることができただけでなく、いつ社会に出ても会社や企業の一員として力を発揮できるスキルを携えているのだと知った。またそれが、人間の在るべき形を学び、それを追い求め、近付く力、真の学力なのだと感じた。

また、全国の名門校の皆さんは、当然知力も、私の知っている高校生と比べると、段違いだった。初日から二日目にかけてグループで行った政策立案のプレゼン活動の際、皆の驚くべき知識量の豊富さに、ただ話を聞くことしかできなかつた。私のグループを例にすると、宇宙産業を議題に政策立案を行った。この大会は、金融知力を押し量るものなのだから、宇宙に関して予習をしてきた人はいないはずなのだ。しかしほとんど全員が、そのことに関する知識・意見を互いに出し合った。このことから、日々の生活の中で得られる知識を、皆さんは瞬時に自分の物にすることができるのだと思ひ、大変感服した。

全国の高校生と自分のレベルの差を痛感し、また、大変学ぶべきことのあった大会であったと思う。

鹿児島大会代表 ラ・サール高等学校二年
吉本 純平

エコノミクス甲子園、という大会の名前はクイズ研究会の冊子でラ・サールOBの木原さんが体験記を書いていたので知ってはいたが、まさか自分が出るとは思っていませんでした。とりあえず「クラウドファンディングアウト」って叫べばいいんだな、と阿呆なことを考えていた自分がここまで来られたのは奇跡ではないかと思う。

事実、僕が出場することになったのもただの偶然だった。本来、現相方の濱田はクイ研究会長とチームを組むはずだったが、濱田は会長に捨てられた。

その結果僕が代替品として選ばれた。無事あの二人が出場していたら、僕はエコ甲と全く関係ないまま終わっていただろう。僕は出られてよかった、と心から思っているのだが、ラ・サールの経歴としては傷が付いてしまったのは申し訳なく思う。ラ・サールはこれまで大会が4回あったうち、2回優勝。当然僕たちは期待されたわけだが、結果は7位タイ。地方大会も接戦だったし、どう考えても良い結果とは言えない。そういう意味では悔しい大会だった。

けれども楽しくなかったかと言われると、そんなことは全くない。数時間前まで赤の他人だった人間と夜中まで日本の再生について熱く語り合うことなんてこれまでにやったことは無かった。同じ高校生がこんな考え方をするのか、と驚くことも多々あり、非常にいい経験になった。そして、そうした出場者と本戦の夜に(経済以外の事も)話せたのも刺激になった。正直なところ、六本木の夜景より会話に夢中だったと思う。

僕たちだけが3日目の朝に帰る、その分他のチームと比べて交流する時間は短かったのは、とても残念だった。他のグループの人とも交流してみたかった。最初は3日なんて長い、と思っていたけれど、間違っていた。2日はあつという間に過ぎた。3日と言わずもっとやってもいい、というぐらいだった。

仮に、エコノミクス甲子園に興味があって、公式サイトで感想文を見ていると言う人がいたら(僕のこの感想文が掲載されるかわからないし、見られるかもわからないけれど)絶対に出場してみる事をお勧めする。もちろん勉強する事も。経済は奥深いと思うし、何よりエコノミクス甲子園は面白い。エコノミクスの為に費やしてきた時間は全て報われているのだと思ひ。ニューヨークに行くことも確実に自分の視野を広げてくれることだろう。

ぜひ、出場して優勝を目指してほしい。しかし僕たちがラ・サールの後輩を鍛えて送り込むので、そう一筋縄にはいかないはずだ。

何も謝辞の言葉を述べていなかったのが最後に一言。同じ全国大会出場者、スタッフや銀行の主催者の方々のおかげで今回のエコノミクス甲子園がとても充実したものとなった。

とても感謝しています。感想文をですす口調にできなかったことは、とても後悔している。

鹿児島大会代表 ラ・サール高等学校二年
濱田 諒

僕がこの「エコノミクス甲子園」に出場しようと思ったのは高校一年の終わりのことです。それから相方を探し、猛勉強して地方予選を突破しました。

そして、全国大会を迎えました。羽田空港の待ち合わせ場所に到着すると、既に多くの出場者が集まっていた。僕は酷い人見知りなので他の高校の方と全く話せませんでした。しかし、その後にあつた講演会やプレゼン作りをしていくうちに皆と打ち解けあっていきました。

今回僕が最も面白かったことはプレゼン作りです。幸運にもラ・サールは灘や名大附と同じグループになることが出来ました。灘の外山君や名大附の坂野さんを中心に楽しく、真剣に「貿易立国・日本」について考えることができました。僕達はそのチームよりも団結力があり、仲もよかったです。最高のプレゼンを作るために朝まで話し合った初日の夜の思い出は僕の一生の宝です。

1日目にはプレゼン作り以外に筆記もありました。僕はあまりできた気がしませんでした。ただ、持てる力はすべて出し切ったと思います。

迎えた2日目、全国大会本番です。最初に行われたビジネスマナークイズには驚かされました。金融・経済は勉強していましたがマナーの勉強も



全国大会感想 Final tournament report



ではしていなかったのでしょうかと焦りました。そして次がプレゼンです。僕は前日からのチームの雰囲気や団結力を考えると負ける気がしませんでした。結果は当然1位です。一緒に考えた鶴丸や灘、名大附、札幌西、渋幕に感謝です。この後、供託クイズが行われて筆記試験が良くできていたことが分かりました。とても嬉しかったです。しかし、この後に僕たちは負けてしまいました。しかし、僕達と同じチームの灘が優勝したので本当に良かったです。

僕はこの大会で得たのは金融・経済の知識だけではありません。友情を得ました。多くの全国から集まった高校生と話し、考えることで多くのことを学び、多くの友達を得ました。彼らは僕の人生において欠かすことのない存在です。

そしてスタッフのみなさん、僕が楽しく過ごせたのも皆さんのおかげです。本当にありがとうございます。

最後に、この大会を通して僕は本当に沢山のことを学びました。しかしながら失ったものは1つありません。この経験を糧にこれからも頑張っていきたいと思えます。全国で戦った皆、関係者の皆様、後押ししてくれた学校の先生方、指導してくださった先輩方、そしてお父様、お母様、本当にありがとうございます。

沖縄大会代表 昭和专业科大学附属高等学校二年 又吉 康雅

エコノミクス甲子園全国大会に参加できて本当によかったと思います。普段では出来ない様々なことを体験できたからです。

沖縄大会代表として全国大会に出場するにあたり、僕は地方大会のとき以上に勉強しました。先輩から頂いた問題集で勉強したり、地区大会で優勝した時に頂いた教材や学校の図書室から借りてきた金融に関する本を読みこんだりして、自分の知識を少しずつ積み重ねていきました。しかし、全国大会が終わった今思うのは、エコ甲で勝ち上がるには知識も大事ではあるけれど、それと同じくらい自分の考えをまとめる力やそれを上手に人に伝える力、といった知識以外の力が必要な人だということです。それを強く実感したのは、前日にプレゼンテーションを考えている時と、準決勝の論述クイズの時です。

プレゼンを準備するために、全国の様々な地域から来ている人たちと話し合っていくと、いろいろな考えやアイデアが出てきました。これは本当にすごいことだと思います。普段学校に通っている時にはあまりできない体験だし、同世代でこんなことが思いつく人がいるんだとおどろいたからです。自分もこのような人たちと同じくらいいろいろな事が考えられるようにならなければと思いました。

論述クイズは、プレゼンの時よりはるかに短い五分間で自分の考えをまとめなければならず、本当に大変でした。時間切れ直前になってなかなか考えがまとまらず、非常にあせりました。なんとか意見をまとめて発表しましたが、残念ながら負けてしまいました。ちゃんと落ちついて段階を踏んで考えることが出来ていれば、もっといい論述が出来たのではないかと思います。今まで以上に自分の意見を整理する力をつけなければいけないなと思いました。

このエコノミクス甲子園に参加して自分が考えたことは、これから社会へ出ていった時に、非常に重要なものになると思えます。自分自身で何を考え、それをどうやって人に伝えていくかということが、これからの社会で暮らしていくためにとても大切なことであると考えます。その大切さをエコ甲を通して学べたような気がします。自分で考え、発表する力をもっとつけなければならないと強く感じました。これからもエコ甲で学んだことをもとに、日々努力していこうと思います。

沖縄大会代表 昭和专业科大学附属高等学校二年 松元 雄大

将来この国のために頑張りたい。そう思っている高校生が参加するのが、エコノミクス甲子園だと僕は考えます。

昨今の日本は大量の借金や、企業の相次ぐ倒産等で政府レベルのみならず国民一人一人にも大きな影響が与えています。この日本の危機を解決できるのは、もちろん未来の大人で、今の学生です。

学校での経済の勉強はしっかり行われていますが、受験を意識する中で、単語を詰めこむような教育が行われている学校が多いのも事実です。

しかし、政策立案で日本の危機を解決する上では、仕組みを理解する深い勉強とオリジナリティーを持った人間が必要とされているという皮肉な現実があります。このギャップを埋め、未来の“人材”を育てるのがこのエコノミクス甲子園の使命となってきました。

今回の大会ではその使命を一生懸命に果たすエコノミクス甲子園の姿を目の当たりにしました。僕はこの救世主を世に送りこんでくださった関係者の皆さんに心から感謝し、またこの大会のより一層の発展を願わずにはいられません。

さて、個人的な話にはなりますが、僕は今回の大会で強く感じたことがあります。それは「まだ日本は捨てたもんじゃない。」ということです。

全国にこんなにも金融経済のことを真剣に考えている高校生たちがいる。そして、その高校生たちは夜になると会ったばかりの仲間と騒ぐことも出来る。

僕はこの仲間たちと日本の明るい未来を創っていくと確信しました。

エコノミクス甲子園に出て良かったです。夢と感動をありがとうございます。

大敗者復活選代表 鹿児島県立鶴丸高等学校二年 中原 大

「優勝は…灘高校『ばんだこばんだ』です。」

進行の方の声と共に僕たちは大きな歓声をあげた。嬉しかった、自分のことのように。

僕たち、第五回エコノミクス甲子園全国大会の出場者は、最初の集会でAからDまでの四グループに分けられた。僕たちのチームは、優勝した灘を筆頭に、三度目の出場の名大附属、前回優勝のラ・サールなど、多くの強豪チームが集まるCグループで決勝へと向かっていくこととなった。

まずはプレゼンの作成だった。夜遅くまでかかるとは聞いていたが、本当にその通りだった。Cグループの全員で知恵を出し合い、様々なことを語っていくうちに、僕たちには自然と「絆」が芽生えていた。

そして、第二・三ラウンドはグループ対抗戦だった。これらのラウンドも、皆で協力して着実に得点を重ねることができた。

次はプレゼン発表。これもうまくいき、グループの「絆」はさらに深まっていった。

しかし、予想外のことが起こってしまった。次のラウンドは、グループの中での勝負だったのだ。つまり、一位のグループ全員が勝ち上がれるのではなく、各グループ内で勝負し、落とすし合うこととなったのだ。僕たちは強豪チームの森くCグループで勝てるはずもなかった。負けた。でも悔しくはなかった。素直に、勝ち上がったCグループのチームに優勝してほしいと思った。

そして、その瞬間は訪れた。灘高校の圧倒的勝利だった。僕たちCグループは同じグループで協力し合ってきた灘高校の二人の優勝を本当に素直に喜び、祝福することができた。

僕はこの大会を通じて感じた、仲間と協力すること、仲間に感謝することの大切さを。そして、このような素晴らしい経験を与えてくれたスタッフの方々や仲間たちに本当に感謝しています。

本当に、本当に有難うございました。

大敗者復活選代表 鹿児島県立鶴丸高等学校二年 芝田 健人

「僕と一緒にエコノミクス甲子園に出てくれない?」。全てはこのメール一通から始まった。よりによってエントリー最終日の午後九時ごろに依頼されたため、その時は止むを得ないという気持ちで出場を決めたのだった。

あの時はどんな気持ちだったとしても、今は出場することを決めた過去の自分に拍手を送りたい。こうして今ここでエコノミクス甲子園全国大会の感想文を書くことができるのはあの時の自分のおかげだからである。

今、「おかげ」という言葉を用いたが、これは日本人の古き良き「感謝」の心をびたりと言いついていと思う。この大会で僕は果たしていくつの「おかげさま」に巡り会えたのだろうか。

エコノミクス甲子園に誘ってくれた相方、この日のために身を粉にして準備等をして下さった金融知力普及協会の方々。支えてくれた友人・家族。そして何よりここで出会えた47人の友。おかげさまで僕は幸せです。

今、47人の友について触れたが、今回の二泊三日で「友」というかけがえのない宝を得ることができた。本気で日本のことを考え、討論を繰り返しながら更けゆく夜を過ごした一日目。皆の意見を練りに練ってつくりあげられたプレゼンはこの旅の一番の思い出かもしれない。

エコノミクス甲子園に出て良かったと、今ならば心の底から大声で叫ぶことができる。書く内容がなかなかまとまらなかったが、言いたいことはただ一つ。

ありがとう。全てに、ありがとう。

昨年度沖縄大会代表 大会運営スタッフ 昭和专业科大学附属高等学校三年 高倉 那奈

私は第4回エコノミクス甲子園の沖縄代表だった者です。昨年私がこの大会への出場を決めた理由は部活顧問の先生に勧められたからであり、決して能動的な理由ではありませんでした。当時高校2年生だった私は政治経済の分野で習う金融・経済を理解するのに精一杯で、地方大会や全国大会対策として勉強した「学校では教えない分野の金融・経済」に正直お手上げ状態で、何度も投げ出そうとしました。しかし、対策を進めていく中で、金融がどれだけ私達の生活を支えてくれたのかを知りとても感動したり、経済の面白い仕組みに感心して好奇心を思う存分満たすことができた。そして、少しずつ金融・経済を好きになっていったあの感覚は今でも覚えています。そして全国大会で同じく金融・経済に関心があるとってもいい仲間に出会えたこともあって、また来年もエコノミクス甲子園に出たい!また全国大会で色々な人に出会いたい!と第5回大会への出場を決めました。

しかし、第5回エコノミクス甲子園の地区大会、結果は準優勝。準優勝チームにのみ与えられる大敗者復活戦でも2位と、涙を飲む結果となりました。全国大会への出場は叶いませんでした。

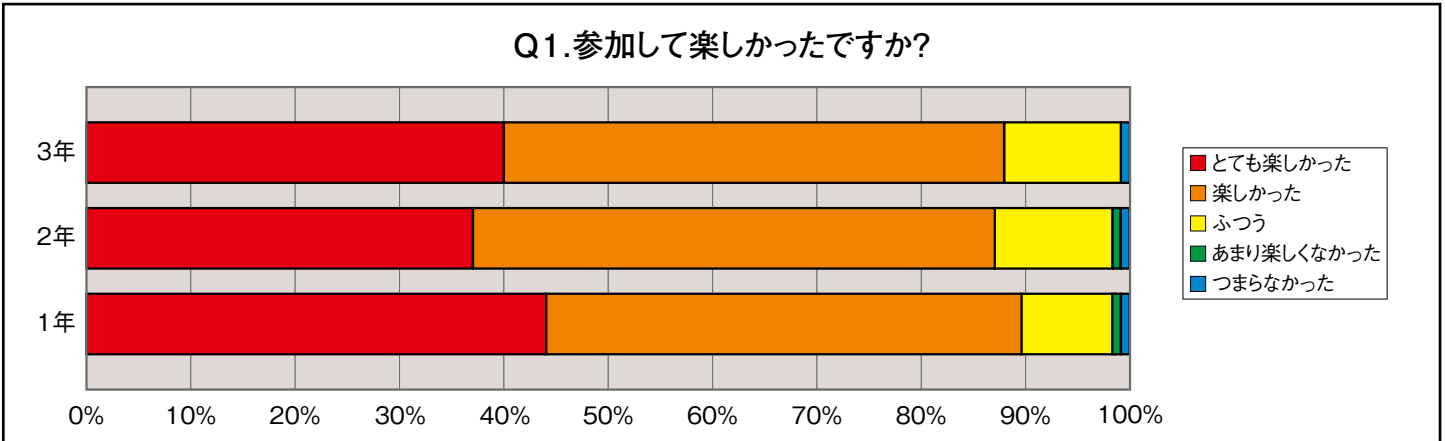
それでも、すっかりエコノミクス甲子園の魅力の虜となってしまった私は、少しでも関ることができればいいと思い、お願いして急きょ当日のスタッフをやらせてもらうことになりました。裏方の仕事の事手伝いは大変でしたが、とてもやりがいがあった楽しかったです。

最後になりましたが、無理なお願いを快く聞いて下さったスタッフの皆様本当にありがとうございました。

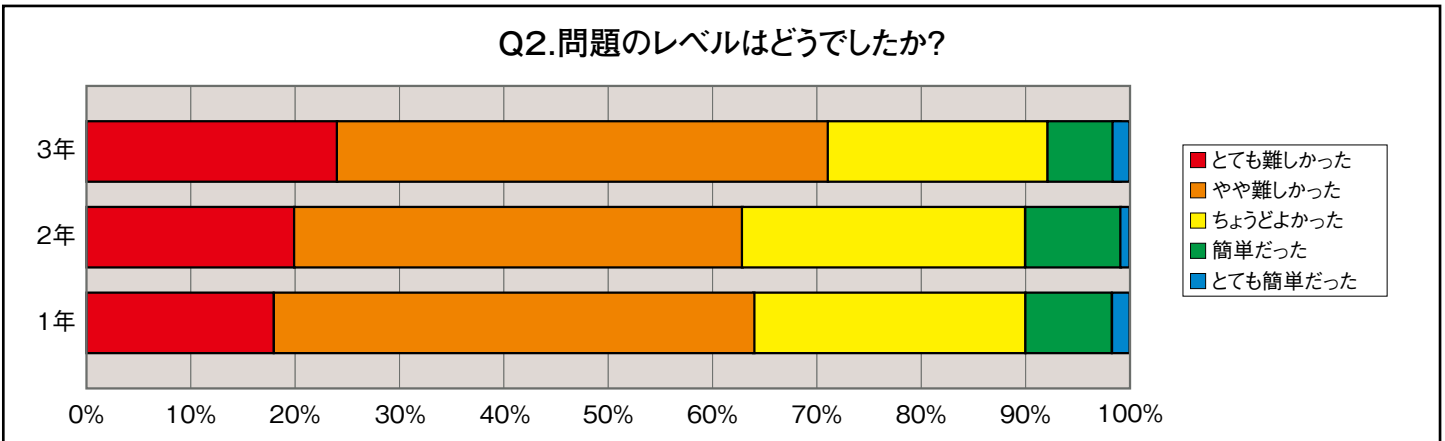




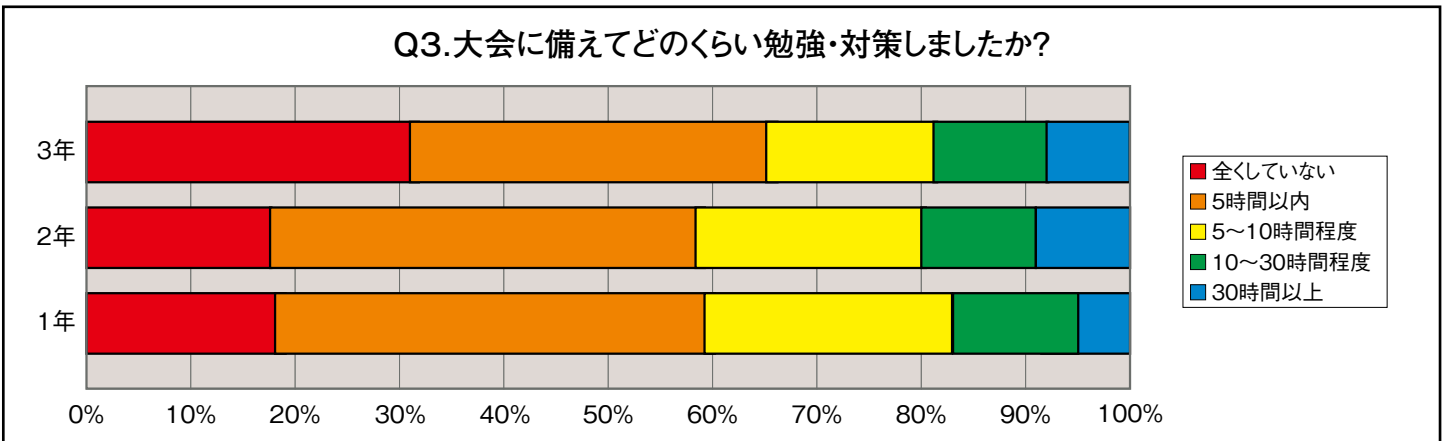
Q1.参加して楽しかったですか？



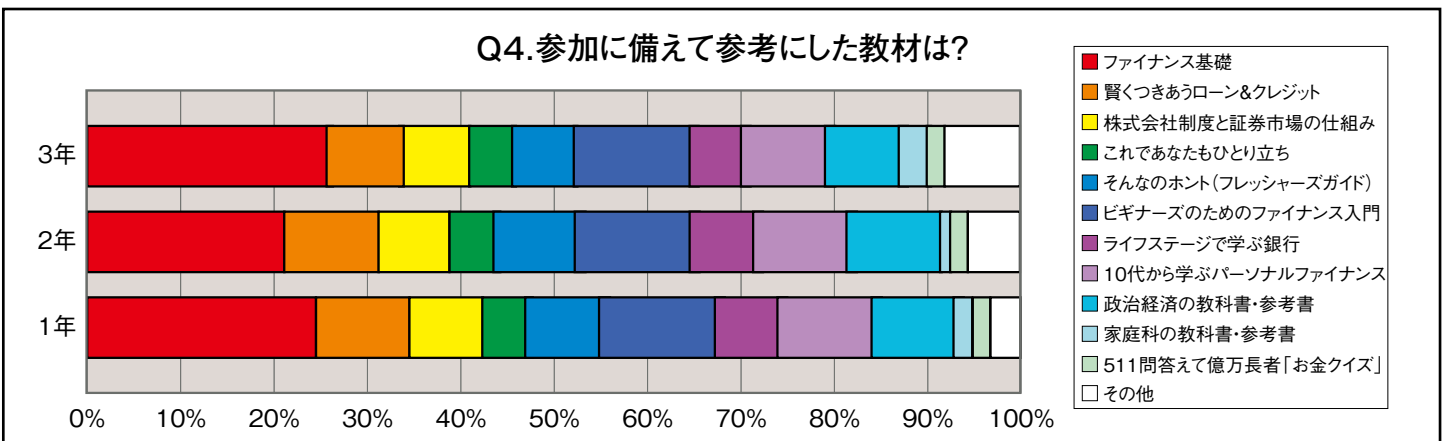
Q2.問題のレベルはどうでしたか？



Q3.大会に備えてどのくらい勉強・対策しましたか？

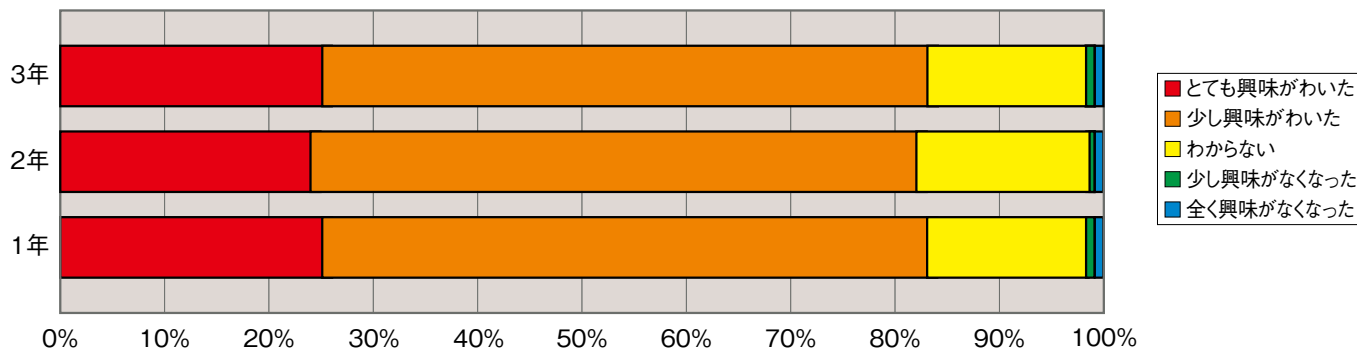


Q4.参加に備えて参考にした教材は？

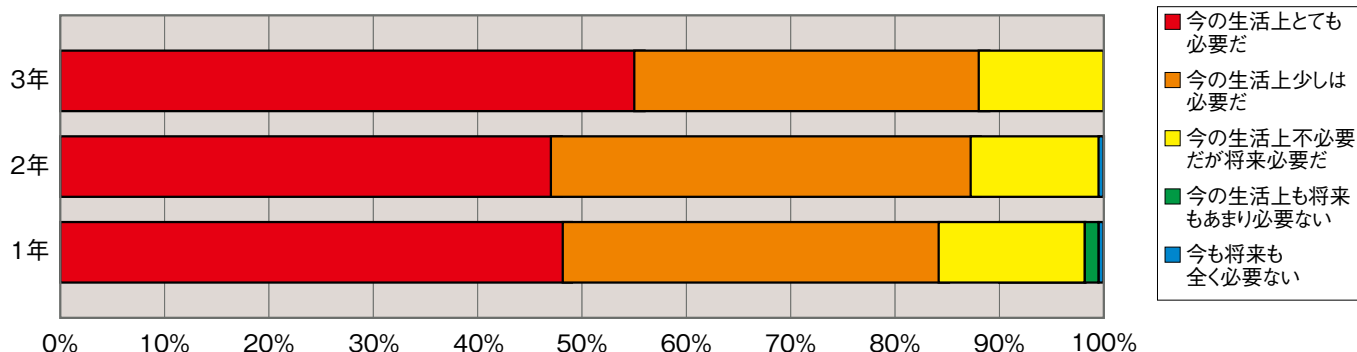




Q5.大会をきっかけに金融・経済に興味がわきましたか？



Q6.高校生が金融・経済を学ぶことをどう思いますか？



応募してきた全ての高校生を対象にして、エコノミクス甲子園に参加する前と後で、同じ内容のアンケートに答えてもらいました。多くの問題で正解する割合が増加しており、エコノミクス甲子園に参加したことで経済の知識を身につけてもらえたことが読み取れます。22問のアンケートのうち特に変化の見られた5問をピックアップいたします。

No.	問題文	選択肢	参加前%	参加後%	前後変化
1	保険について	① どういう仕組みか自信をもって説明できる。	7%	6%	-1%
		② 大体わかっていると思う。	46%	59%	13%
		③ よく分からない。	47%	35%	-12%
2	ローンについて	① どういう仕組みか自信をもって説明できる。	9%	7%	-2%
		② 大体わかっていると思う。	55%	61%	6%
		③ よく分からない。	36%	32%	-4%
3	年金について	① どういう仕組みか自信をもって説明できる。	13%	9%	-4%
		② 大体わかっていると思う。	54%	63%	9%
		③ よく分からない。	33%	27%	-5%
4	金利が上昇すると、一般に増加するものは、	① 企業によるモノの生産	17%	11%	-6%
		② 預貯金	62%	71%	9%
		③ 民間消費	11%	10%	-1%
		④ 設備投資	10%	7%	-3%
5	間接金融と言われる企業の資金調達方法は、	① 株式を発行すること	41%	21%	-20%
		② 社債を発行すること	15%	17%	2%
		③ 銀行から借り入れること	39%	57%	18%
		④ 利益の積立金を充当すること	5%	6%	1%

※問4・5は正解の選択肢に色を付けてあります。

事前学習教材紹介



エコノミクス甲子園では各企業・団体様から寄贈していただいたテキストを、事前学習教材として無料で参加生徒に送付しております。事前学習教材の内容から何題かクイズが出題されるので、生徒たちも大会前にしっかりと勉強してくれています。単純にテキストを配布するよりも高い学習効果を上げています。



■ 金融知力通信講座グラウンドステージテキスト
 (作成:金融知力普及協会 寄贈:シティバンク銀行)
 シティバンク銀行ホームページ
<http://www.citibank.co.jp/ja/>



■ ファイナンス基礎
 (作成:金融知力普及協会 寄贈:シティバンク銀行)
 シティバンク銀行ホームページ
<http://www.citibank.co.jp/ja/>



■ ビギナーズのためのファイナンス入門
 (作成:寄贈:金融広報中央委員会)
 金融広報中央委員会ホームページ
<http://www.shiruporuto.jp/>



■ これであなたもひとり立ち
 (作成:寄贈:金融広報中央委員会)
 金融広報中央委員会ホームページ
<http://www.shiruporuto.jp/>



■ ライフステージで学ぶ銀行
 (作成:寄贈:全国銀行協会)
 全国銀行協会ホームページ
<http://www.zenginkyo.or.jp/>



■ 賢くつきあうローン&クレジット
 (作成:寄贈:全国銀行協会)
 全国銀行協会ホームページ
<http://www.zenginkyo.or.jp/>



■ そんぼのホントフレッシュャーズガイド
 (作成:寄贈:日本損害保険協会)
 日本損害保険協会ホームページアドレス
<http://www.sonpo.or.jp/>



■ 株式会社制度と証券市場のしくみ
 (作成:寄贈:日本証券業協会)
 日本証券業協会ホームページアドレス
<http://www.jsda.or.jp/>



■ 10代から学ぶパーソナルファイナンス
 (作成:寄贈:日本ファイナンシャル・プランナーズ協会)
 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会ホームページアドレス
<http://www.jafp.or.jp/>



大会名	取材(TV)	取材(新聞)	取材(その他)	大会名	取材(TV)	取材(新聞)	取材(その他)			
北海道	札幌テレビ放送	北海道新聞		奈良	奈良テレビ放送	奈良新聞	奈良経済新聞			
秋田	秋田放送	秋田魁新報		中国	テレビせとうち	山陽新聞	瀬戸内海経済レポート			
	秋田テレビ	北羽新報			読売新聞	香川	岡山放送	四国新聞	香川経済レポート	
岩手	岩手放送	盛岡タイムス			テレビせとうち		山陽放送	徳島	四国放送	徳島新聞
	岩手めんこいテレビ				朝日新聞		西日本放送		日経新聞	徳島新聞
	NHK盛岡放送局				毎日新聞		愛媛		南海放送	愛媛新聞
宮城	ミヤギテレビ	河北新報		テレビ愛媛	愛媛朝日テレビ	九州		西日本新聞		
富山	仙台放送	日刊工業新聞		愛媛CATV	長崎		NIB長崎国際テレビ放送	長崎新聞		
	北日本放送	北日本新聞		愛媛CATV		九州		西日本新聞		
石川	富山テレビ放送	富山新聞		徳島		金融経済新聞				
	チューリップテレビ			愛媛						
福井	北陸朝日放送	北國新聞		九州						
	テレビ金沢	北陸中日新聞		長崎						
千葉	福井放送	福井新聞		鹿児島	鹿児島放送	南日本新聞				
	福井テレビ			毎日新聞	沖縄	琉球放送	沖縄タイムス			
	千葉テレビ	読売新聞	ラウンジ	ニッキン						
		朝日新聞		中部経済新聞						
		産経新聞								
埼玉			角川書店							
神奈川		朝日新聞(神奈川県版)								
		神奈川新聞								
東海		ニッキン								
岐阜		中部経済新聞								
	名古屋テレビ	岐阜新聞								
	中京テレビ	中日新聞								
	テレビ愛知	読売新聞								
	岐阜放送	中部経済新聞								





Special Thanks

Special Thanks

(順不同)

シティバンク銀行株式会社の皆様
ラッセル・インベストメント・グループの皆様
金融広報中央委員会の皆様
全国銀行協会の皆様
日興フィナンシャル・インテリジェンス株式会社の皆様
日本証券業協会の皆様

日本損害保険協会の皆様
日本ファイナンシャル・プランナーズ協会の皆様
日本ファイナンシャルアカデミー株式会社の皆様
株式会社 学生情報センターの皆様
青山社中株式会社の皆様
ハリウッド大学院大学の皆様

北海道銀行の皆様
岩手銀行の皆様
秋田銀行の皆様
七十七銀行の皆様
埼玉りそな銀行の皆様
千葉銀行の皆様
千葉興業銀行の皆様
りそな銀行の皆様
横浜銀行の皆様
北陸銀行の皆様
北國銀行の皆様
愛知銀行の皆様

十六銀行の皆様
近畿大阪銀行の皆様
南都銀行の皆様
中国銀行の皆様
百十四銀行の皆様
伊予銀行の皆様
阿波銀行の皆様
西日本シティ銀行の皆様
十八銀行の皆様
鹿児島銀行の皆様
沖縄銀行の皆様

各地方大会、全国大会でのボランティアの皆様

■ニューヨーク研修でお世話になった皆様

タイガーアジアマネジメントLLCの皆様
三井住友アセットマネジメント株式会社の皆様
シティグループ・グローバル・マーケッツ・インクの皆様

ブルームバーグL.P.の皆様
在ニューヨーク日本国総領事館 経済担当の皆様

■審判・講師をつとめていただいた皆様 (肩書きは当時)

株式会社ジェムコ日本経営 特別顧問 大星 公二様
株式会社 学生情報センター 執行役員統括本部長 本卦 良啓様
シティグループ・ジャパン・ホールディングス株式会社 コーポレート・アフェアーズ担当執行役員 ガイ・マシューズ様
シティグループ・ジャパン・ホールディングス株式会社
コーポレート・アフェアーズ本部 コーポレート・シチズンシップ部長 内藤 和美様
ラッセル・インベストメント株式会社
クライアント・コミュニケーション・サービス部 マーケティングチーム 田中 裕子様
日本ファイナンシャルアカデミー株式会社 代表取締役 泉 正人様
青山社中株式会社 共同代表 遠藤 洋路様
福井 智彦様
協会理事 野中 ともよ様
金融知カシニアインストラクター 牛山 吉彦様

■問題作成にご協力をいただいた金融知カインストラクターの皆様

三浦 小霧様 森田 泰生様 石原 貴文様 船津 正敏様 松山 豊明様 木村 祐介様
桑原 徳雄様 阿部 重利様 薦田 哲男様 前田 紳詞様 杉山 晴彦様

■学生ボランティアスタッフ

大西 智章様 木原 健太郎様 成川 兼司様 久本 晃義様 安田 吉孝様
岡辺 公志様 佐々木 翼様 縄田 千明様 平郷 翔太郎様 渡邊 幸輝様
亀岡 孝展様 田中 聖也様 栢場 駿輔様 又吉 康紀様 高倉 那奈様

ご協力を頂いた全ての皆様、参加して下さった全ての高校生たち



<http://www.apfl.or.jp>

特別協賛

